



System Center 2012 R2 Configuration Manager SP1を 使用したWindowsベースの HP Thin Clientの管理

Windows 10 IoT Enterprise
Windows Embedded 8 Standard
Windows Embedded Standard 7

目次

概要	3
Configuration Managerの機能.....	3
資産インテリジェンス	3
ソフトウェア更新の管理	3
Desired Configuration Management	3
ソフトウェア配布	3
オペレーティングシステムの展開.....	3
構成	3
サーバー要件	3
クライアント要件	4
参考資料	4
Configuration Managerのインベントリ	4
Configuration Managerのハードウェア インベントリ	4
Configuration Managerのソフトウェア インベントリ	4
Configuration Managerの資産インテリジェンス	4
Configuration Managerのインストール	5
WindowsベースのHP Thin Clientへのアプリケーションの配布	5
Configuration Manager 2012 R2 SP1によるイメージング	5
Windowsプリインストール環境のブート イメージの準備	5
イメージング用ドライバー パッケージの作成	6
オペレーティングシステム イメージのキャプチャ	11
キャプチャ メディアのタスク シーケンスの作成	11
参照システムからのWindowsイメージのキャプチャ	14

オペレーティングシステムの展開によるオペレーティングシステムイメージの展開.....	14
Configuration Managerへのキャプチャ済みWindows参照イメージのインポート	14
展開先ポイントへのConfiguration Managerクライアント パッケージの展開.....	16
User State Migration Toolパッケージと配布ポイントの同期（オプション）	17
Windows参照イメージを展開するためのタスク シーケンスの作成.....	17
Windows参照イメージの展開	24
展開後のタスク	27
既存のオペレーティングシステム展開タスクの変更.....	27
管理機能ドライバー パックのダウンロードと展開.....	27
オペレーティングシステム展開タスクのドライバー パッケージの作成	28
HP Thin Clientソフトウェア設定用ドライバー パッケージの作成	30
既存のWindows 10オペレーティング システム展開タスクの変更によるHP Thin Clientのサポート	34
付録A — User State Migration Toolを追加するためのタスク シーケンスの準備.....	40
付録B — 展開タスク シーケンスによる書き込みフィルターの有効化	40
付録C — ブート イメージの準備および対応ドライバーの追加.....	41
付録D — カスタマイズ済み応答ファイルを使用したWindowsセットアップの言語選択の自動化.....	41
カスタマイズ済み応答ファイルの作成.....	42
Configuration Managerによるカスタマイズ済み応答ファイルの展開	44
付録E — 既知の問題および解決策	45
詳細情報	52

概要

このドキュメントでは、Windows® 10 IoT Enterprise、Windows Embedded 8 Standard、Windows Embedded Standard 7オペレーティングシステムを実行しているHP Thin Clientを、Microsoft® System Center 2012 R2 Configuration Manager Service Pack 1 (Configuration Manager) を使用して管理する方法について説明します。

Configuration Managerの機能

資産インテリジェンス

資産インテリジェンスでは、どのようなハードウェア資産とソフトウェア資産があり、誰がその資産を使用し、その人はどこにいるのかをIT管理者が継続して見通せるようになり、組織ではインフラストラクチャをさらに適切に管理できるようになります。

ソフトウェア更新の管理

ソフトウェア更新の管理では、企業全体のITシステムでの更新プログラムの配信と管理が簡素化されます。IT管理者は、Microsoft製品、サードパーティ アプリケーション、カスタムの社内基幹業務アプリケーション、ハードウェア ドライバー、システムBIOSの更新プログラムをさまざまなデバイスに配信できます。

Desired Configuration Management

Desired Configuration Managementにより、ITシステムは組織の目的の構成に適合するようになり、ネットワーク全体の可用性、セキュリティ、パフォーマンスが改善されます。

ソフトウェア配布

ソフトウェア配布では、エンタープライズ ネットワークのデスクトップ、サーバー、ノートブック、モバイルデバイスへのアプリケーションおよび更新プログラムの配布が簡素化されます。

オペレーティングシステムの展開

オペレーティング システムの展開は非常に柔軟で自動化されたソリューションであり、IT管理者は、以前の状態がどのようなものであっても、サーバーとデスクトップの展開（ベアメタル展開を含む）と構成を実行できます。

構成

サーバー要件

- Active Directory (AD)、動的ホスト構成プロトコル (DHCP)、ドメイン ネーム システム (DNS)、Windows展開サービス (WDS)、Windows Server Update Services (WSUS)、Windowsアセスメント&デプロイメント キット (Windows ADK) を含むWindows Server® 2008 R2 SP1
- Microsoft System Center 2012 R2 Configuration Manager SP1
- Microsoft SQL Server 2008 R2 SP1

クライアント要件

次の表で説明するように、Microsoft System Center 2012 R2 Configuration Manager SP1が、WindowsベースのHP Thin Clientにプリインストールされていること。

	Windows 10 IoT Enterprise	Windows Embedded 8 Standard	Windows Embedded Standard 7P (64ビット)	Windows Embedded Standard 7E
HP Thin Clientモデル	t630	○		○
	t628	○		○
	t730	○		○
	t420			○
	t820		○	○
	t620/t620 PLUS	○	○	○
	t520	○	○	○
	t610/t610 PLUS		○	○
	t510			○
	t505			○
	EliteBook 745 G2			○
	mt245			○
	mt42	○		○
	mt41			○
	mt40			○
	t5740e			○
t5570e			○	

参考資料

Microsoft System Center 2012 R2 Configuration Manager SP1のサポート対象構成については詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-ip/library/qq682077.aspx>を参照してください。

Configuration Managerのインベントリ

Configuration Managerでは、多くの方法によってハードウェアとソフトウェアのインベントリを収集できます。Configuration Managerによって登録されているクライアント コンピューターとモバイル デバイスのハードウェアに関する詳細情報を調べるには、ハードウェア インベントリを使用します。クライアント コンピューターに存在するソフトウェアとファイルに関する情報を調べるには、ソフトウェア インベントリを使用します。資産インテリジェンスでは、これらのインベントリ機能が拡張され、企業のソフトウェアライセンスを管理できるようになります。

Configuration Managerのハードウェア インベントリ

ハードウェア インベントリについて詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-ip/library/qq682093.aspx>を参照してください。

Configuration Managerのソフトウェア インベントリ

ソフトウェア インベントリについて詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-ip/library/qq682126.aspx>を参照してください。

Configuration Managerの資産インテリジェンス

資産インテリジェンスについて詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-ip/library/qq699382.aspx>を参照してください。

Configuration Managerのインストール

次の方法により、Configuration Managerをインストールできます。

- クライアント プッシュ インストール
- ソフトウェア更新ポイント インストール
- グループ ポリシー インストール
- ログオン スクリプト インストール
- 手動インストール
- アプリケーション管理を使用したアップグレード インストール
- 自動クライアント アップグレード
- クライアント イメージング

最新のConfiguration Manager (5.00.8239.1000) がインストールされていることを確認してから作業を続けてください。詳しくは、https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682132.aspx#BKMK_DeployClientComputersを参照してください。

WindowsベースのHP Thin Clientへのアプリケーションの配布

Configuration Managerでは、企業がアプリケーションの作成、管理、展開、監視するのに役立つ一連のツールとリソースを提供しています。

アプリケーションの作成方法について詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682159.aspx>を参照してください。

アプリケーションの展開方法について詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682082.aspx>を参照してください。

パッケージとプログラムの作成方法について詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682112.aspx>を参照してください。

パッケージとプログラムの展開方法について詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682178.aspx>を参照してください。

書き込みフィルターが有効なWindowsベースのHP Thin Clientにアプリケーションを展開するときは、展開中にデバイスで書き込みフィルターを無効にするかどうかを指定できます。展開後はデバイスを再起動する必要があります。書き込みフィルターを無効にしないと、別の展開で変更を保存しない限り、ソフトウェアは一時オーバーレイに展開され、デバイスを再起動してもインストールされません。

[Commit changes at deadline or during a maintenance window (requires restarts)] (◆ 期日にまたはメンテナンス期間中に変更を確定する◆) チェックボックスにより、書き込みフィルターの動作を制御できます。

Configuration Manager 2012 R2 SP1によるイメージング

最初に展開プロセスを完了します。詳しくは、https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682108.aspx#BKMK_Workflowを参照してください。

その後、次のどれかの方法により、Configuration Managerクライアントがあるコンピューターにオペレーティング システムを展開します。

- PXEによる展開
- マルチキャスト展開
- ブート メディアによる展開
- スタンドアロン メディアによる展開
- 事前設定されたメディアによる展開

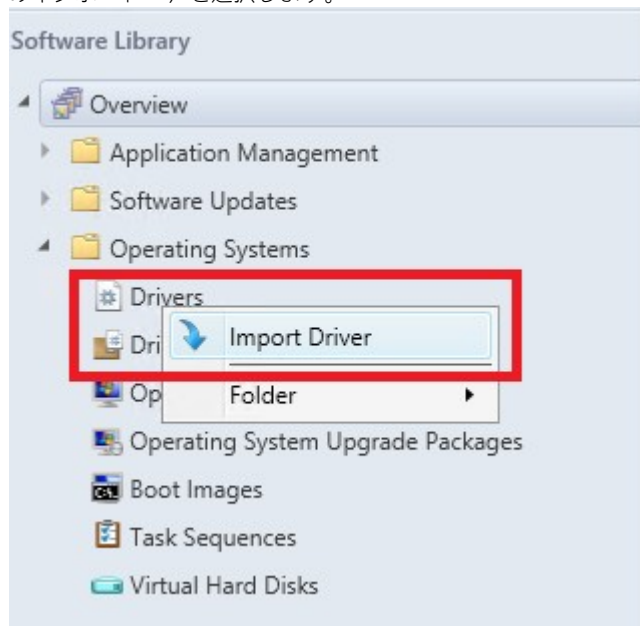
展開方法について詳しくは、https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/qq682108.aspx#BKMK_OSDMethodsを参照してください。

Windowsプリインストール環境のブート イメージの準備

Configuration Managerの初期設定のブート イメージでは、HPが提供するほとんどのイメージがサポートされます。HP Windows 10 IoT Enterpriseイメージはコンパクト モードで展開されますが、これはWindows 10用の新しい形式です。Configuration Managerを使用して、Windows 10 IoT EnterpriseイメージがあるHP Thin Clientを管理するには、カスタマイズしたWindows 10ブート イメージが必要です。ブート イメージの作成方法について詳しくは、「[付録C—ブート イメージの準備および対応ドライバーの追加](#)」を参照してください。

イメージング用ドライバーパッケージの作成

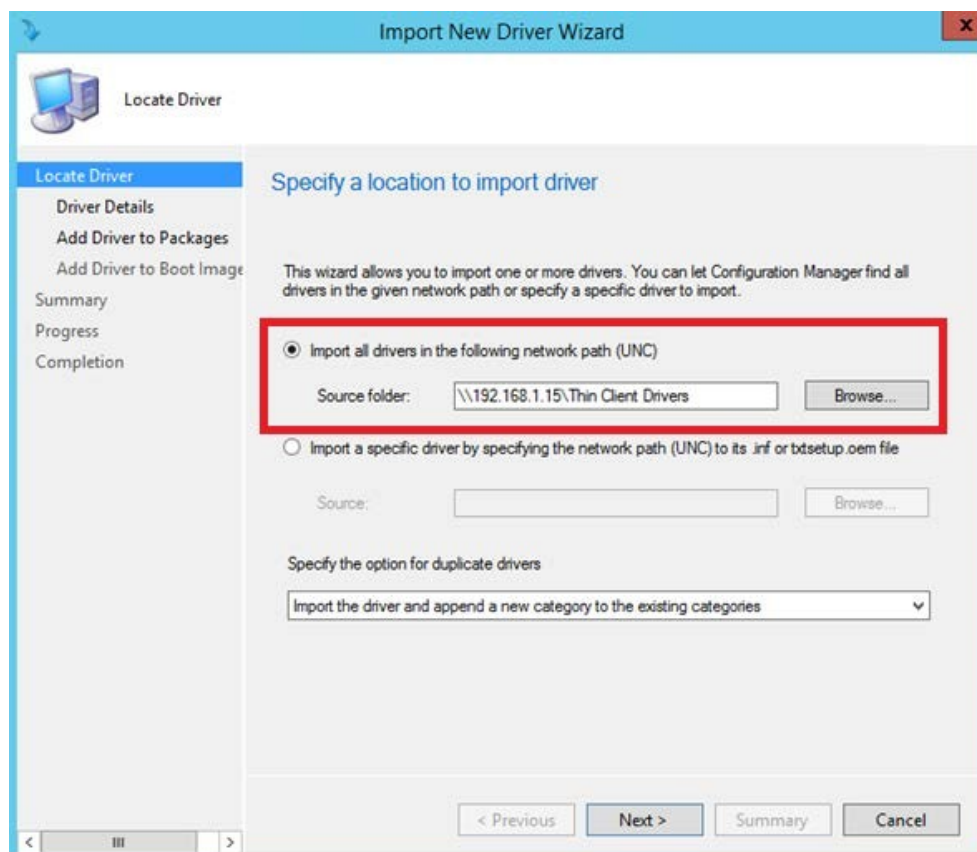
1. **【スタート】**、**【すべてのプログラム】**、**【Microsoft System Center 2012】**、**【Configuration Manager】**の順に選択します。
2. **【Software Library】**（◆ソフトウェア ライブラリ◆）に移動します。左側のパネルで**【概要】**を選択し、**【オペレーティング システム】**を選択します。**【Drivers】**（◆ドライバー◆）を右クリックし、**【Import Driver】**（◆ドライバーのインポート◆）を選択します。



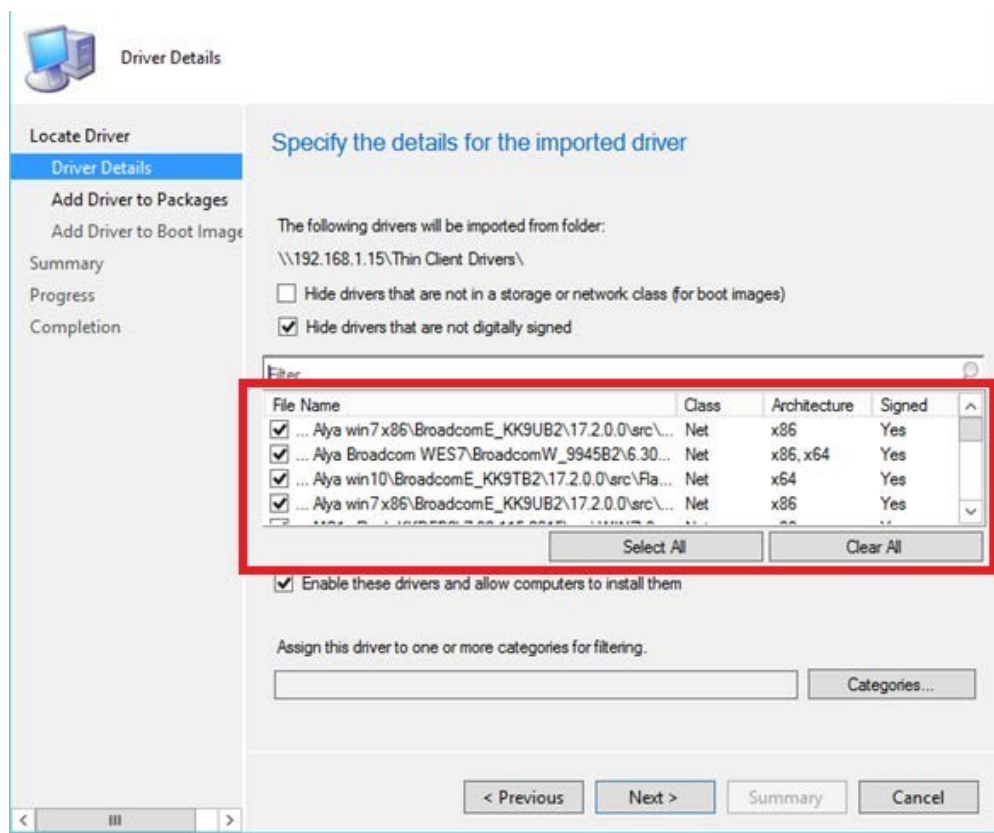
3. **【Import New Driver】**（◆新規ドライバーのインポート◆）ウィザードでドライバーのソース フォルダを指定し、**【次へ】**を選択します。

注

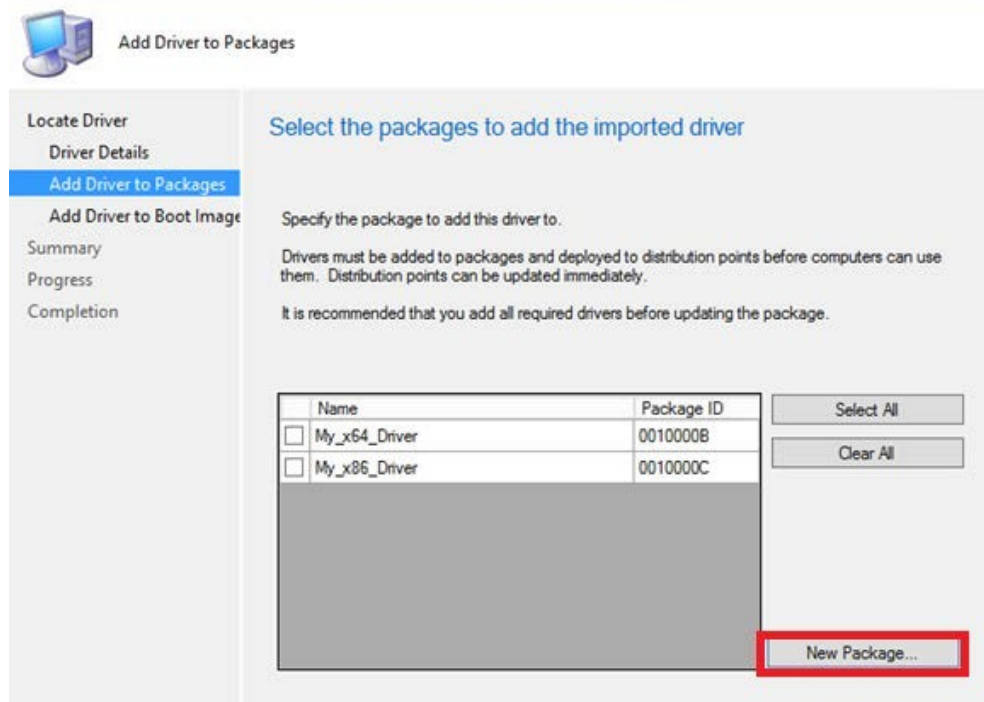
ドライバーは<http://www.hp.com/go/bizsupport/>からダウンロードできます（Thin Clientモデルを検索し、**【ドライバー、ソフトウェア、およびファームウェア】**を選択してください）。



4. インポートするドライバーを選択し、**[次へ]**を選択します。



5. [Add Driver to Packages] (◆ドライバーをパッケージに追加◆) 画面で**[New Package]** (◆新しいパッケージ◆) を選択します。



- [Create Driver Package] (◆ドライバー パッケージの作成◆) ダイアログ ボックスでパッケージ名を入力し、ネットワークUNCパスを指定します (空のフォルダーを使用してください)。

Specify the following information for the new driver package.

Name:

Comment:

Specify a network path (UNC) where Configuration Manager stores drivers added to this package.

Path:

Example: \\servername\sharename

- [OK]**を選択して[Create Driver Package] (◆ドライバー パッケージの作成◆) ダイアログを閉じてから、**[次へ]**を選択します。

Add Driver to Packages

Locate Driver
Driver Details
Add Driver to Packages
Add Driver to Boot Image
Summary
Progress
Completion

Select the packages to add the imported driver

Specify the package to add this driver to.

Drivers must be added to packages and deployed to distribution points before computers can use them. Distribution points can be updated immediately.

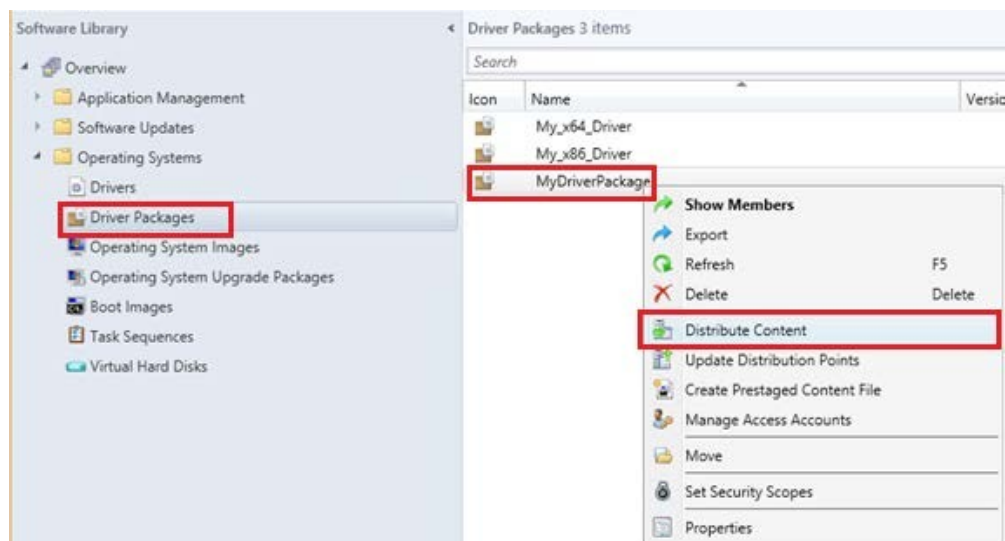
It is recommended that you add all required drivers before updating the package.

Name	Package ID
<input type="checkbox"/> My_x64_Driver	0010000B
<input type="checkbox"/> My_x86_Driver	0010000C
<input checked="" type="checkbox"/> MyDriverPackage	00100015

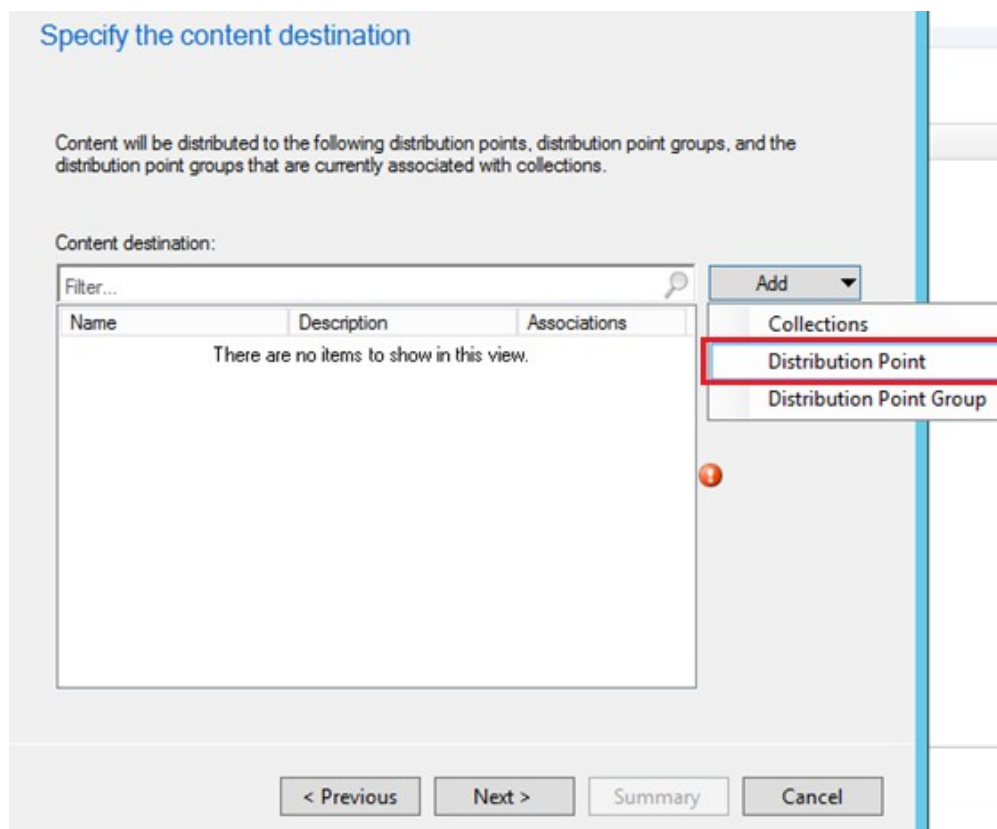
< Previous Next > Summary Cancel

- [Add Driver to Boot Images] (◆ドライバーをブート イメージに追加◆) ページでは、初期設定のオプションを変更しないでください。**[次へ]**を選択します。
- [Summary] (◆概要◆) ページで**[次へ]**を選択します。
- ウィザードが完了したら、**[閉じる]**を選択します。
- [System Center Configuration Manager]**、**[Software Library]** (◆ソフトウェアライブラリ◆)、**[概要]**、**[オペレーティングシステム]**、**[ドライバー パッケージ]**の順に選択します。

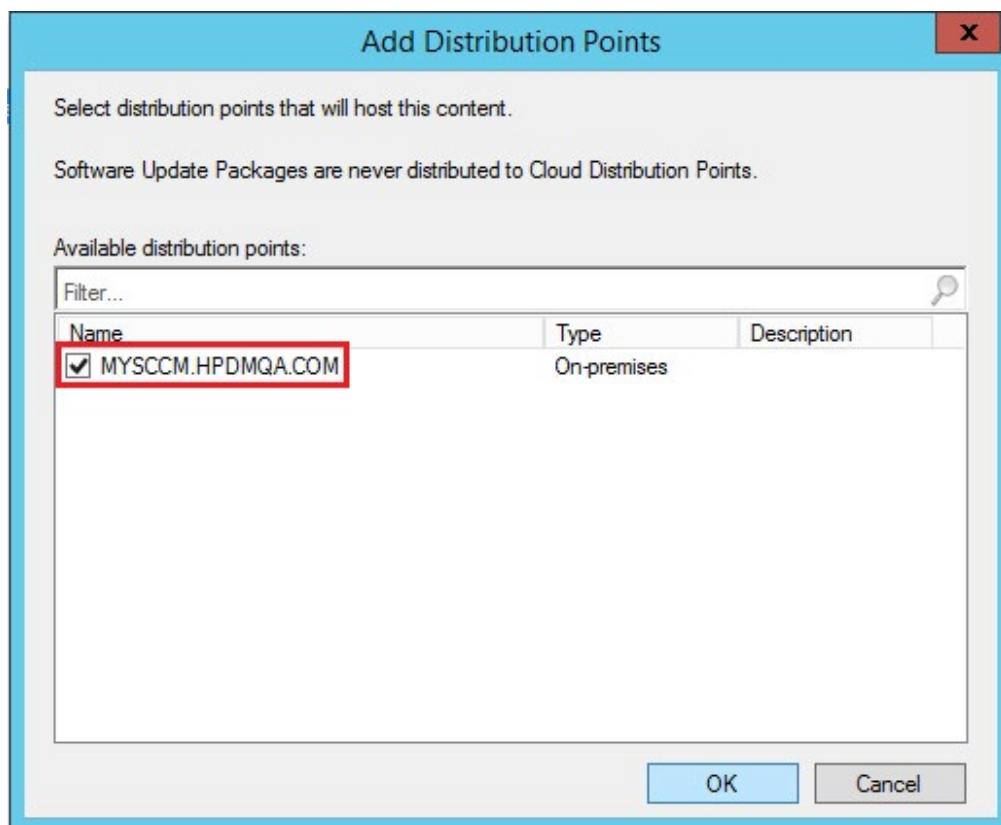
12. インポートしたドライバー パッケージを右クリックし、**[Distribute Content]**（◆コンテンツの配布◆）を選択します。



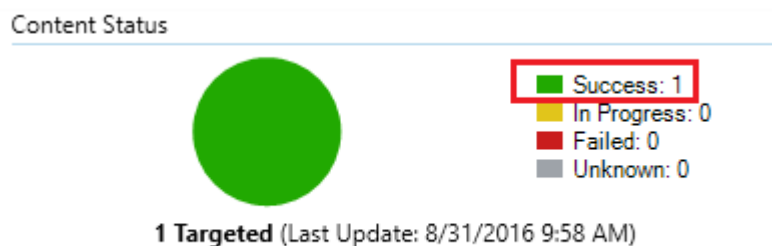
13. [Distribute Content]（◆コンテンツの配布◆）ウィザードの[全般]ページで**[次へ]**を選択します。
14. **[追加]**、**[Distribution Point]**（◆配布ポイント◆）の順に選択します。



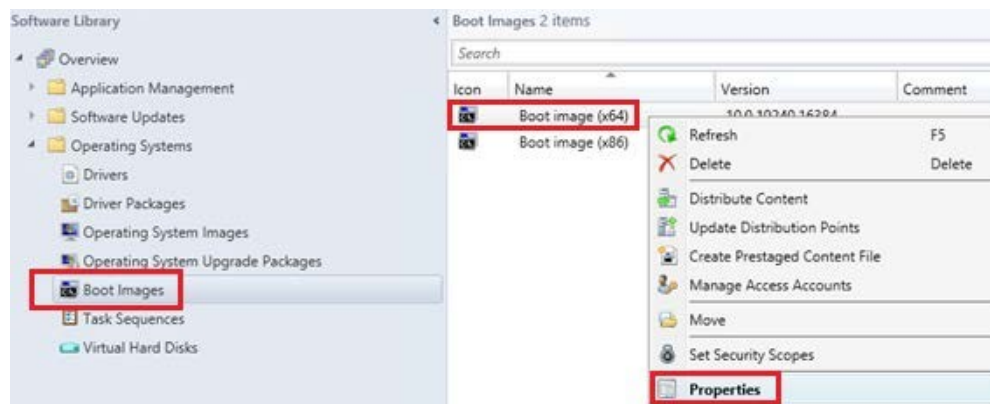
- [Add Distribution Points] (◆配布ポイントの追加◆) ダイアログボックスで、使用可能な配布ポイントを選択し、**[OK]**を選択してダイアログボックスを閉じます。



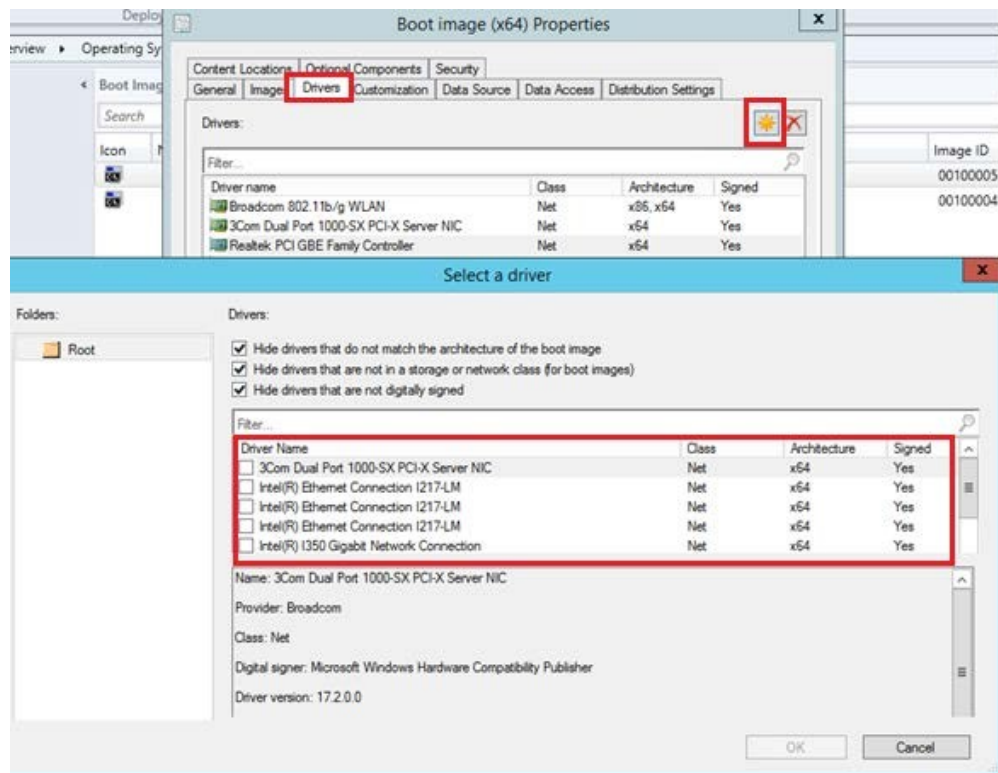
- ウィザードが完了するまで**[次へ]**を選択し、**[閉じる]**を選択します。
- [Driver Packages]** (◆ドライバー パッケージ◆) 画面を更新し、コンテンツのステータスが**[成功]**になっていることを確認してから作業を進めます。



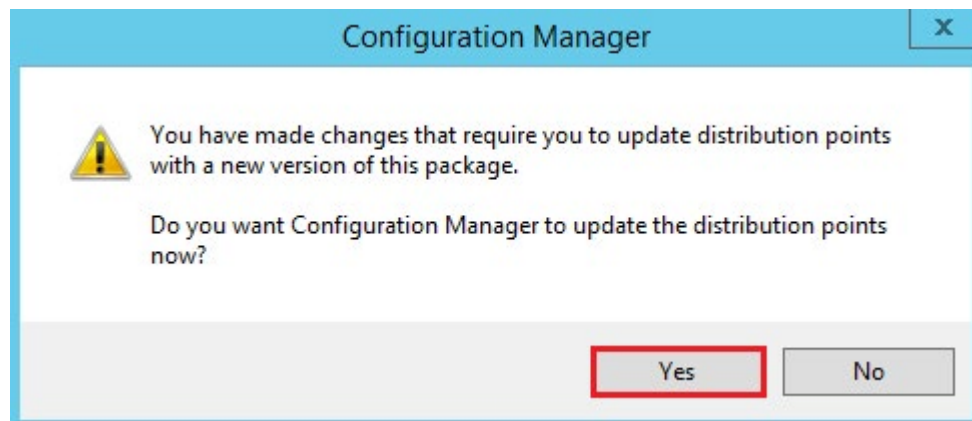
- [System Center Configuration Manager], [Software Library]** (◆ソフトウェアライブラリ◆)、**[概要]**、**[オペレーティング システム]**、**[Boot Images]** (◆ブートイメージ◆) の順に選択します。
- 適切なブートイメージを右クリックし、**[プロパティ]**を選択します。



20. [プロパティ]ダイアログ ボックスで**[Drivers]** (◆ドライバー◆) タブを選択し、目的のドライバーを追加します。



21. **[適用]**、**[はい]**の順に選択します。



22. [Update Distribution Points] (◆配布ポイントの更新◆) ウィザードで**[次へ]**を選択してから**[閉じる]**を選択し、ウィザードを終了します。
23. **[OK]**を選択し、**[プロパティ]**タブを閉じます。
24. **[Boot Images]** (◆ブート イメージ◆) 画面を更新し、コンテンツのステータスが**[成功]**になっていることを確認してから作業を続けます。

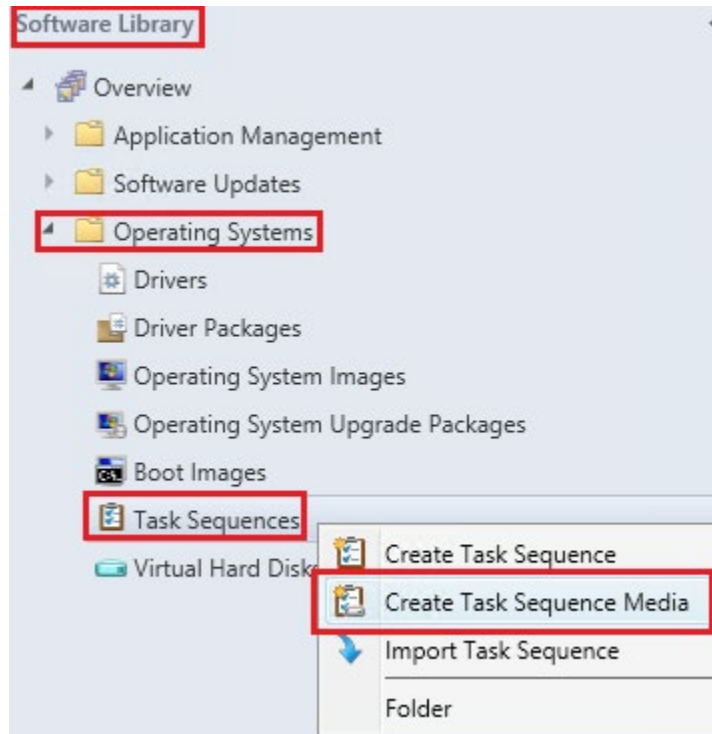
オペレーティング システム イメージのキャプチャ

イメージをキャプチャする前に、対応するドライバー パッケージを作成して、配布ポイントにプッシュしたことを確認してください。詳細については、「[イメージング用ドライバー パッケージの作成](#)」を参照してください。

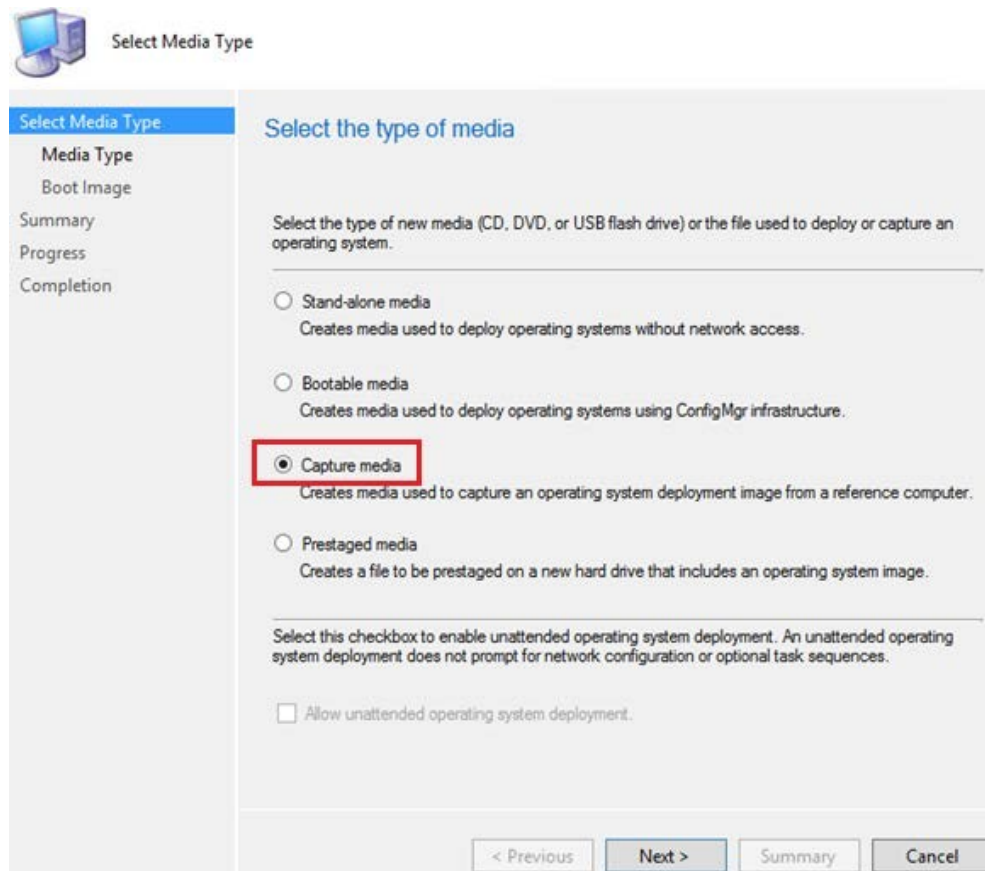
キャプチャ メディアのタスク シーケンスの作成

1. **[System Center Configuration Manager]**、**[Software Library]** (◆ソフトウェア ライブラリ◆)、**[概要]**、**[オペレーティング システム]**の順に選択します。

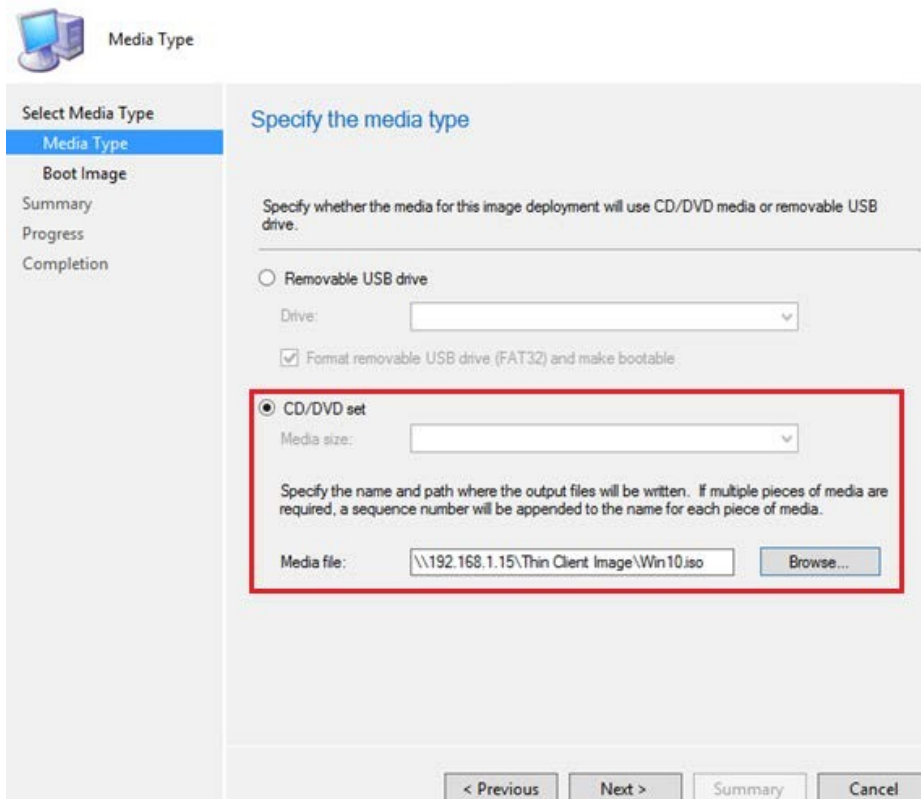
2. 左側のパネルで**[Task Sequences]**（◆タスク シーケンス◆）を右クリックし、**[Create Task Sequence Media]**（◆タスク シーケンス メディアの作成◆）を選択します。



3. [Create Task Sequence Media]（◆タスク シーケンス メディアの作成◆）ウィザードで、**[Capture Media]**（◆キャプチャメディア◆）を選択し、**[次へ]**を選択します。



4. メディア タイプを選択してから、**ドライブ**（リムーバブルUSBドライブ タイプを使用している場合）また**メディアファイル**（CD/DVDセットタイプを使用している場合）のパスまたは名前を指定します。



Media Type

Select Media Type

- Media Type
- Boot Image
- Summary
- Progress
- Completion

Specify the media type

Specify whether the media for this image deployment will use CD/DVD media or removable USB drive.

Removable USB drive

Drive:

Format removable USB drive (FAT32) and make bootable.

CD/DVD set

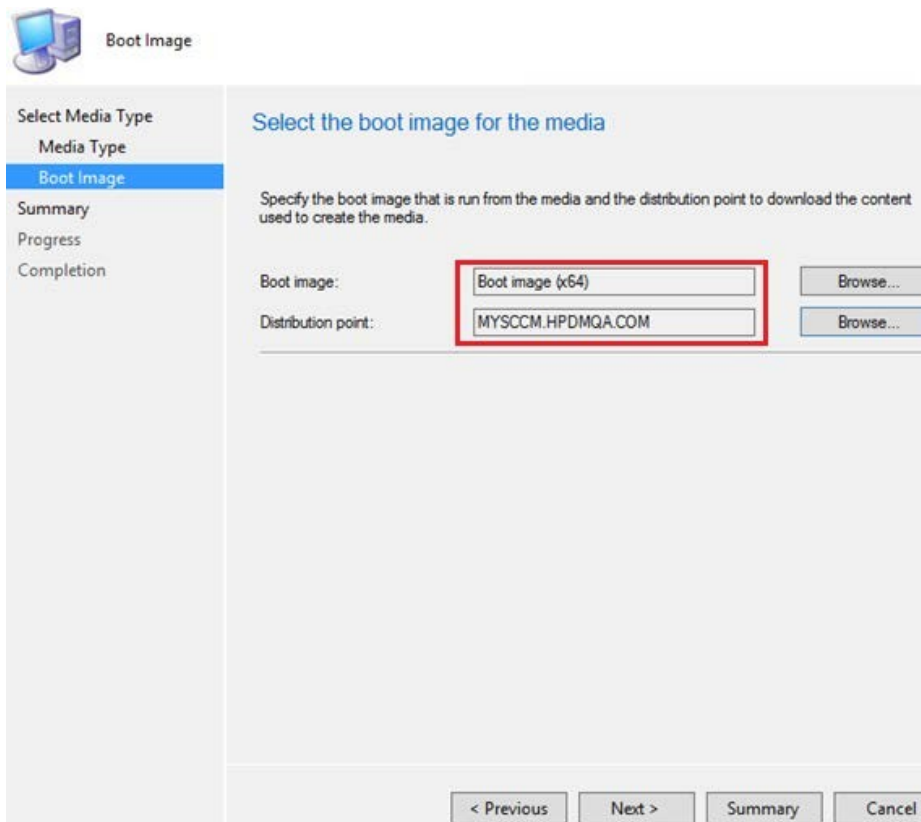
Media size:

Specify the name and path where the output files will be written. If multiple pieces of media are required, a sequence number will be appended to the name for each piece of media.

Media file:

< Previous Next > Summary Cancel

5. **【次へ】**を選択します。
6. 適切な**ブート イメージ**および**配布ポイント**を選択し、**【次へ】**を選択します。ブート イメージには、ターゲット Thin ClientのNICドライバーを含める必要があります。



Boot Image

Select Media Type

- Media Type
- Boot Image
- Summary
- Progress
- Completion

Select the boot image for the media

Specify the boot image that is run from the media and the distribution point to download the content used to create the media.

Boot image:

Distribution point:

< Previous Next > Summary Cancel

7. [Summary]（◆概要◆）画面で**【次へ】**を選択します。ウィザードにより、キャプチャ メディア（ISO）が作成されます。

8. ウィザードが完了したら、**【閉じる】**を選択します。
9. ISOをメディアに書き込みます。

参照システムからのWindowsイメージのキャプチャ

次の手順では、クライアントへのローカルアクセスが必要です。

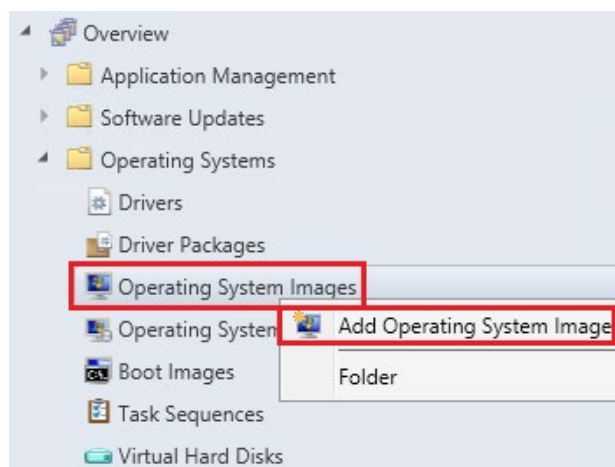
1. 必要に応じて、参照システムをドメインから切断します。
2. 管理者アカウントのパスワードは初期設定値 (Administrator) から変更しないでください。
3. 書き込みフィルターを無効にしてから再起動します。
4. 管理者アカウントでログオンします。
5. デバイスでEmbedded Device Manager (EDM) を実行している場合は、Windowsのservices.mscを使用してEDM書き込みフィルター サービスを停止します。
6. タスク シーケンスをUser State Migration Toolに組み込む場合は、ソース イメージや宛先イメージのRAMディスクが構成済みであり、最低250 MBの領域があり、USMT操作がサポートされることを確認します。タスク シーケンスを準備してUser State Migration Toolに組み込む方法については、「[付録A—User State Migration Toolを追加するためのタスク シーケンスの準備](#)」を参照してください。
7. ISOを含むメディアを挿入します。
8. 自動実行が起動しない場合は、<タスク シーケンス キャプチャ メディア>:\SMS\binを手動で参照し、tsmbautorun.exeを起動します。
9. ウィザードが表示されます。画面の説明に沿って操作します。Windows PEブート イメージにネットワーク接続機能がある場合 (つまり、NICドライバーがインストールされている場合) は、WIMファイルのネットワークの場所を指定できます。
10. 完了すると、ウィザードは自動的に終了します。システムが再起動してWindows PEがロードされ、2~5分以内にキャプチャが始まります。必要に応じてキャプチャ メディアを取り出し、デバイスがキャプチャ メディアから起動しないようにします。
11. 初期設定では、イメージのキャプチャ後にローカル管理者アカウントが無効になります。

オペレーティング システムの展開によるオペレーティング システム イメージの展開

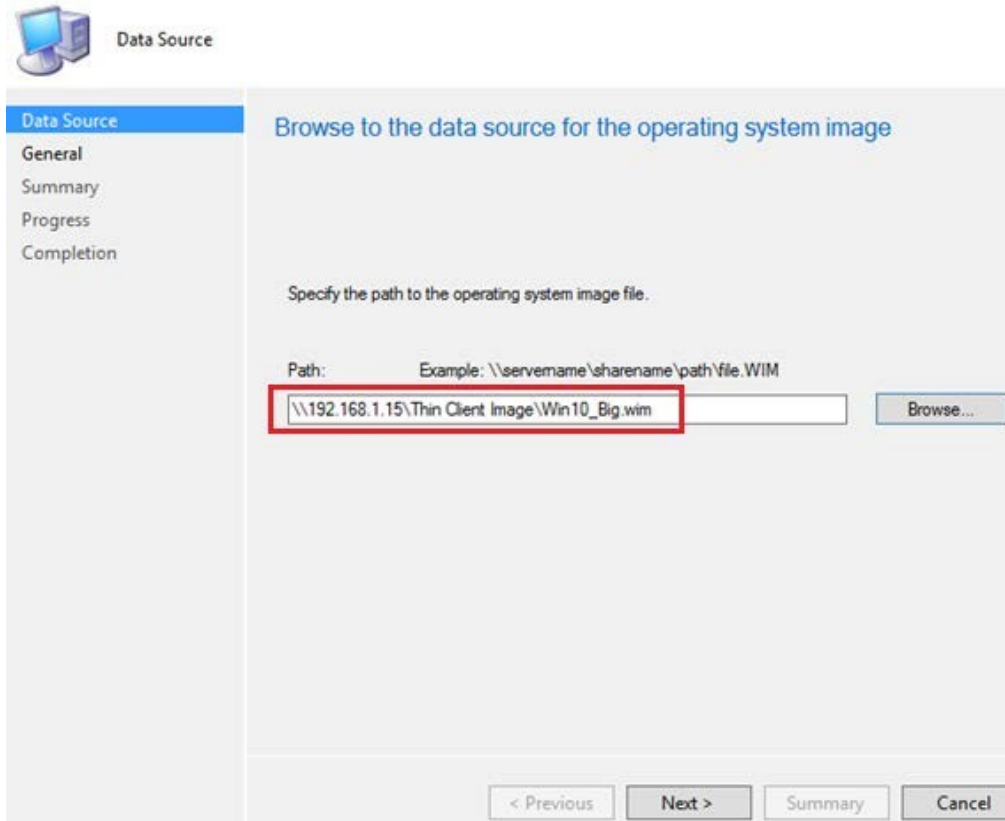
イメージを展開する前に、対応するドライバー パッケージを作成して、配布ポイントにプッシュしたことを確認してください。詳細については、「[イメージング用ドライバーパッケージの作成](#)」を参照してください。

Configuration Managerへのキャプチャ済みWindows参照イメージのインポート

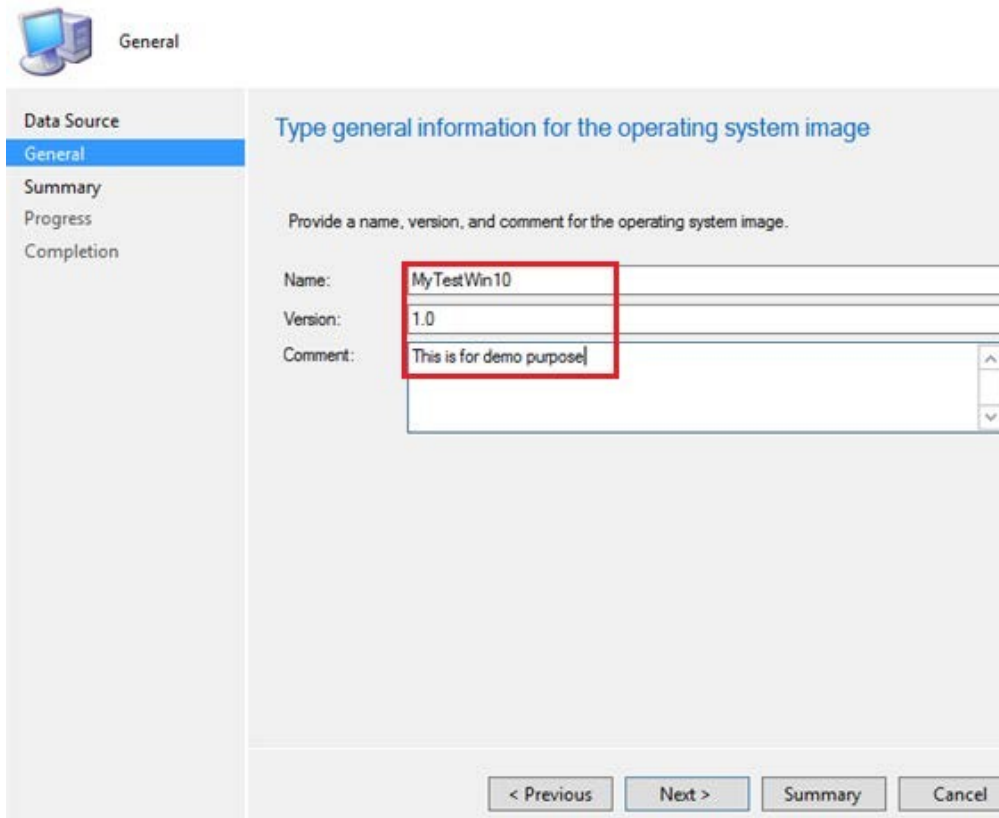
1. イメージ ファイルを保存するための共有フォルダーをConfiguration Managerサーバーに作成します。すべてのユーザーがこのフォルダーにアクセスできるようにしてください。
2. キャプチャした参照Windows WIMファイルをこのフォルダーにコピーします。
3. **【System Center Configuration Manager】**、**【Software Library】** (◆ソフトウェアライブラリ◆)、**【概要】**、**【オペレーティング システム】**の順に選択します。
4. **【Operating System Images】** (◆オペレーティング システム イメージ◆) を右クリックし、**【オペレーティング システム イメージの追加】**を選択します。



5. [オペレーティング システム イメージの追加]ウィザードでネットワーク パス (UNC) を入力し、**【次へ】**を選択します。

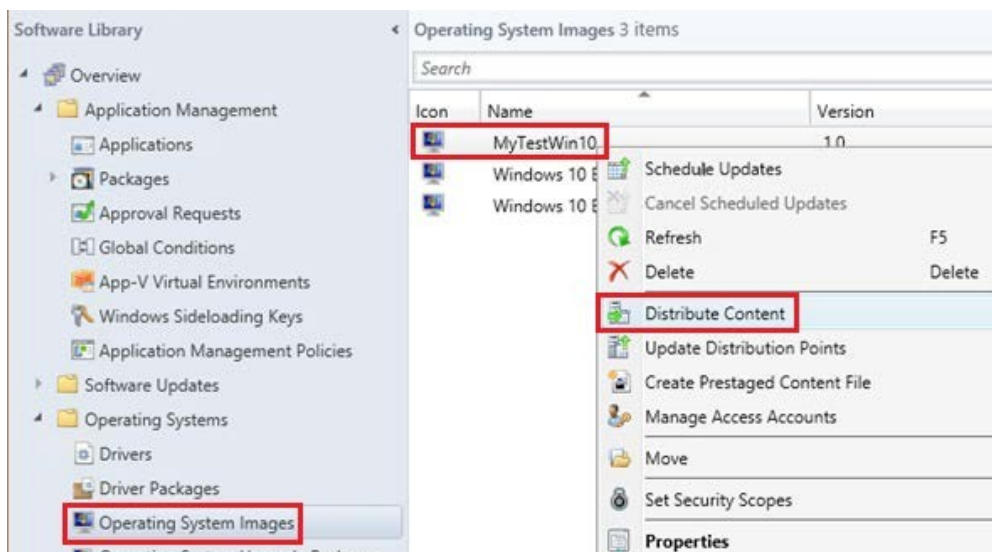


6. [全般]ページで必要な情報を入力して、**【次へ】**を選択します。



7. [Summary] (◆概要◆) ページで**【次へ】**を選択します。
8. ウィザードが完了したら、**【閉じる】**を選択します。

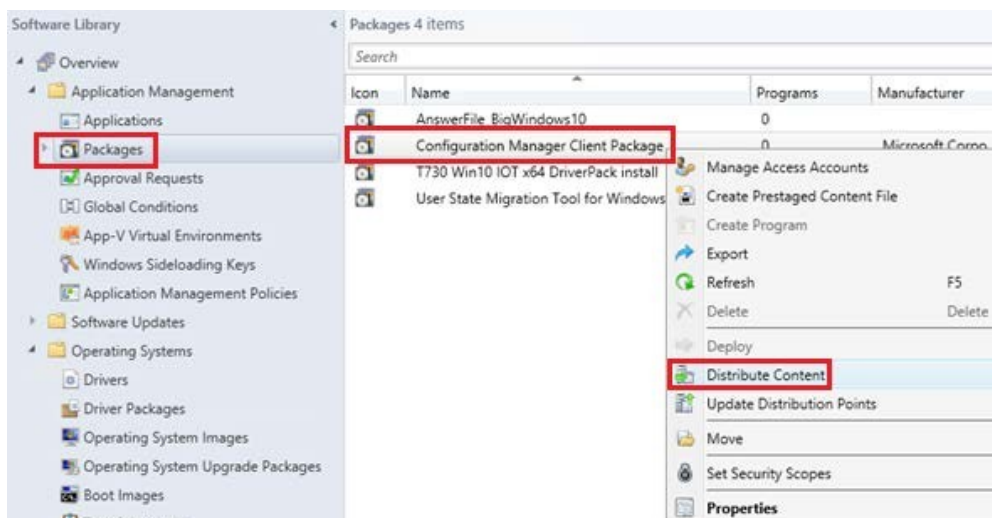
9. **[System Center Configuration Manager]**、**[Software Library]** (◆ソフトウェア ライブラリ◆)、**[概要]**、**[オペレーティング システム]**の順に選択し、新しく追加したオペレーティング システム イメージを選択します。
10. **[Distribute Content]** (◆コンテンツの配布◆) を右クリックし、**[次へ]**を選択します。



11. **[Content Destination]** (◆コンテンツの展開先◆) で**配布ポイント**を追加します。
12. 使用可能な**展開先ポイント**を選択し、**[次へ]**を選択します。
13. [Summary] (◆概要◆) ページで**[次へ]**を選択します。
14. ウィザードが完了したら、**[閉じる]**を選択します。
15. **[オペレーティング システム]**画面を更新し、コンテンツのステータスが**[成功]**になっていることを確認してから作業を進めます。

展開先ポイントへのConfiguration Managerクライアントパッケージの展開

1. **[System Center Configuration Manager]**、**[Software Library]** (◆ソフトウェア ライブラリ◆)、**[概要]**、**[Application Management]** (◆アプリケーション管理◆)、**[Packages]** (◆パッケージ◆) の順に選択します。
2. Configuration Managerクライアント パッケージを右クリックし、**[Distribute Content]** (◆コンテンツの配布◆) を選択します。

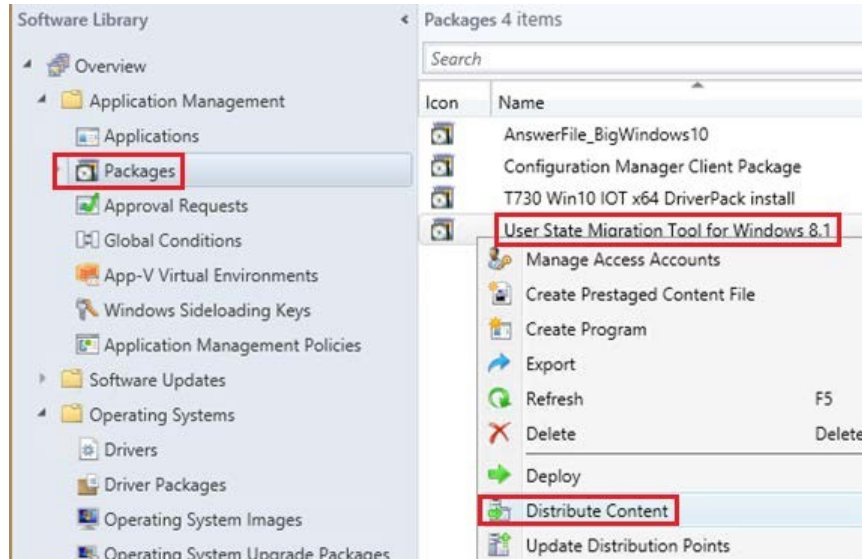


3. [Distribute Content] (◆コンテンツの配布◆) ウィザードで**[次へ]**を選択します。
4. **[Content Destination]** (◆コンテンツの展開先◆) で**配布ポイント**を追加します。
5. 使用可能な**展開先ポイント**を選択し、**[次へ]**を選択します。
6. [Summary] (◆概要◆) ページで**[次へ]**を選択します。
7. ウィザードが完了したら、**[閉じる]**を選択します。
8. **[Packages]** (◆パッケージ◆) 画面を更新し、コンテンツのステータスが**[成功]**になっていることを確認してから次に進みます。

User State Migration Toolパッケージと配布ポイントの同期（オプション）

イメージに対応するUSMT（User State Migration Tool）を使用してください。Windows 10アセスメント&デプロイメントキット（ADK）のUSMTはWindows10 IoT Enterpriseイメージングに使用し、Windows 8 ADKのUSMTはWindows Embedded 8 Standardイメージングに使用します。USMTパッケージは、ADKのインストールによって作成されます。

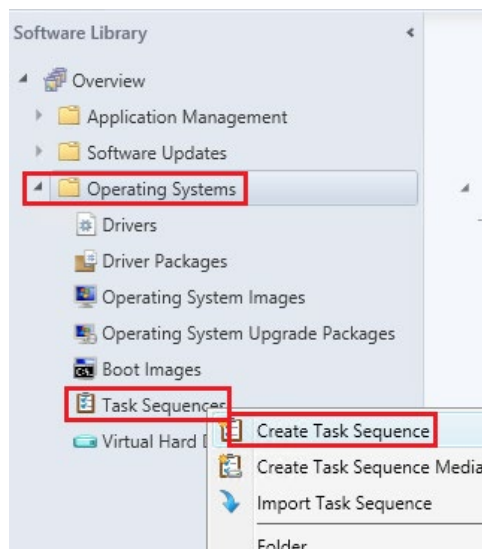
1. **[System Center Configuration Manager]、[Software Library]**（◆ソフトウェア ライブラリ◆）、**[概要]、[Application Management]**（◆アプリケーション管理◆）、**[Packages]**（◆パッケージ◆）の順に選択します。
2. ADKのインストールによって作成されるUSMTパッケージを右クリックし、**[Distribute Content]**（◆コンテンツの配布◆）を選択します。



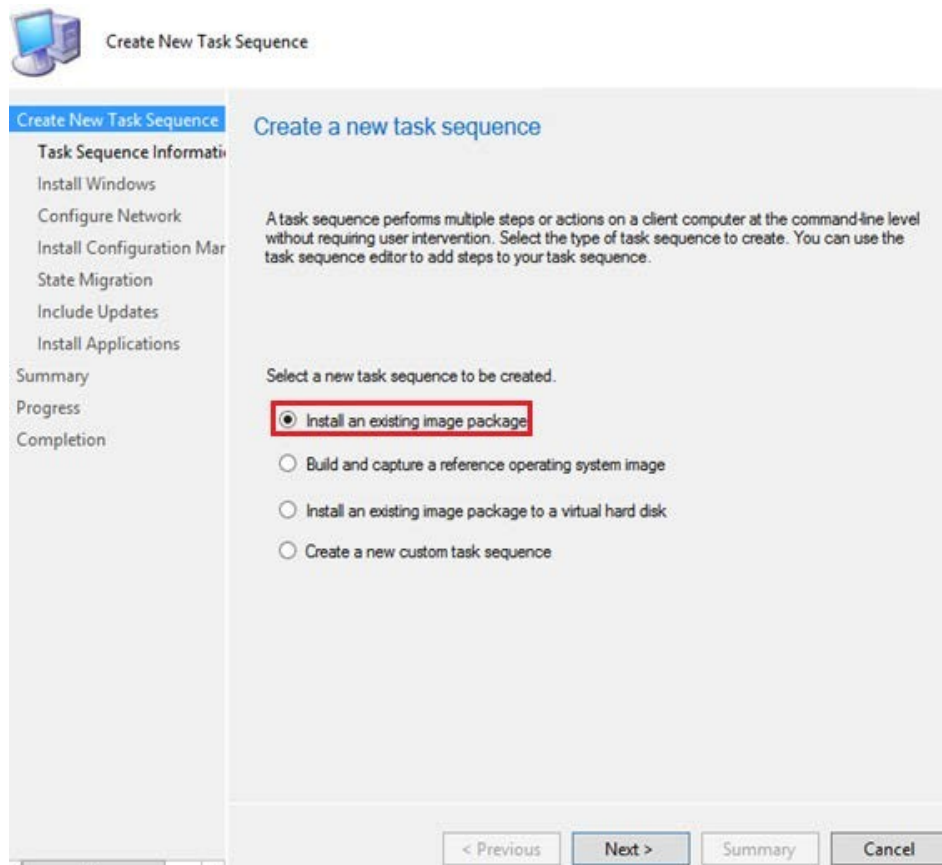
3. [Distribute Content]（◆コンテンツの配布◆）ウィザードで**[次へ]**を選択します。
4. **[Content Destination]**（◆コンテンツの展開先◆）で**配布ポイント**を追加します。
5. 使用可能な**展開先ポイント**を選択し、**[次へ]**を選択します。
6. [Summary]（◆概要◆）ページで**[次へ]**を選択します。
7. ウィザードが完了したら、**[閉じる]**を選択します。
8. **[Packages]**（◆パッケージ◆）画面を更新し、コンテンツのステータスが**[成功]**になっていることを確認してから次に進みます。

Windows参照イメージを展開するためのタスク シーケンスの作成

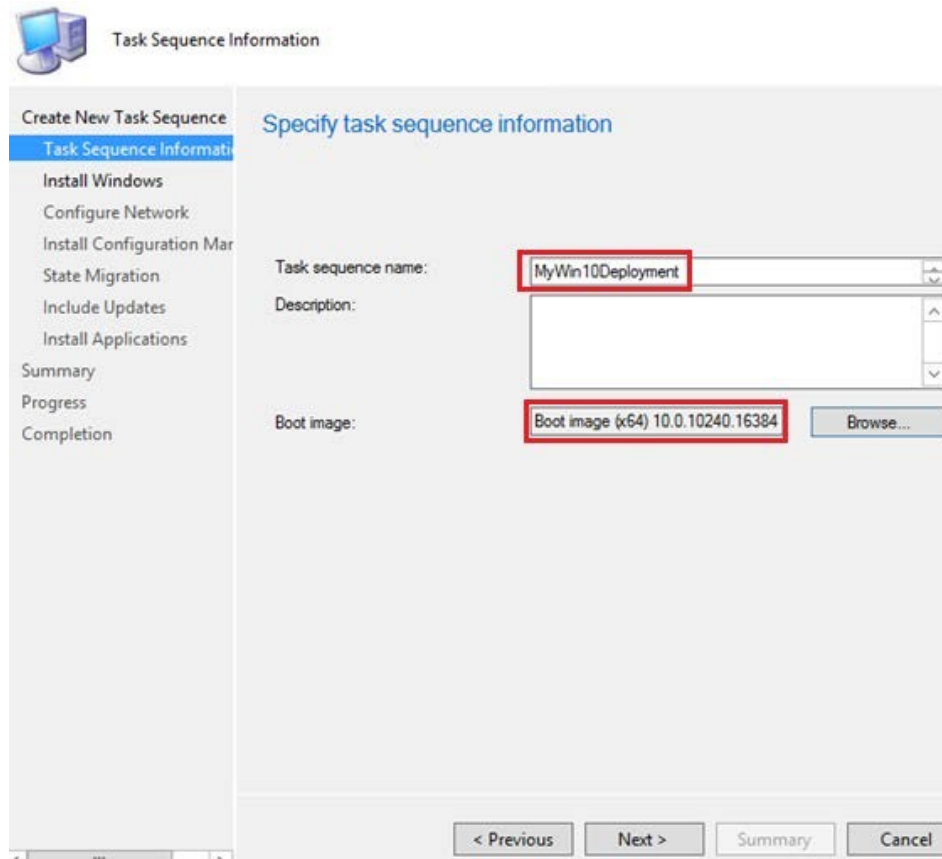
1. **[System Center Configuration Manager]、[Software Library]**（◆ソフトウェア ライブラリ◆）、**[概要]、[オペレーティング システム]**の順に選択します。
2. **[Task Sequence]**（◆タスク シーケンス◆）を右クリックし、**[Create Task Sequence]**（◆タスク シーケンスの作成◆）を選択します。



3. [New Task Sequence]（◆新規タスク シーケンス◆）ウィザードで、**[Install an existing image package]**（◆既存のイメージパッケージのインストール◆）を選択して**[次へ]**を選択します。

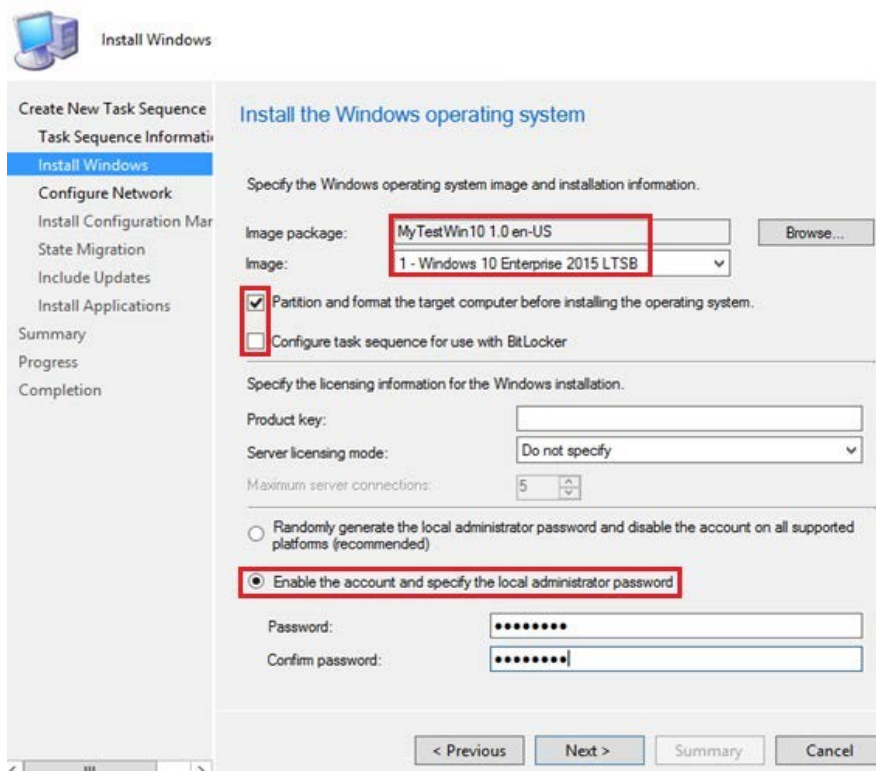


4. **[Task sequence name]** (◆タスク シーケンス名◆) を入力し、適切なブート イメージを選択してから**[次へ]**を選択します。

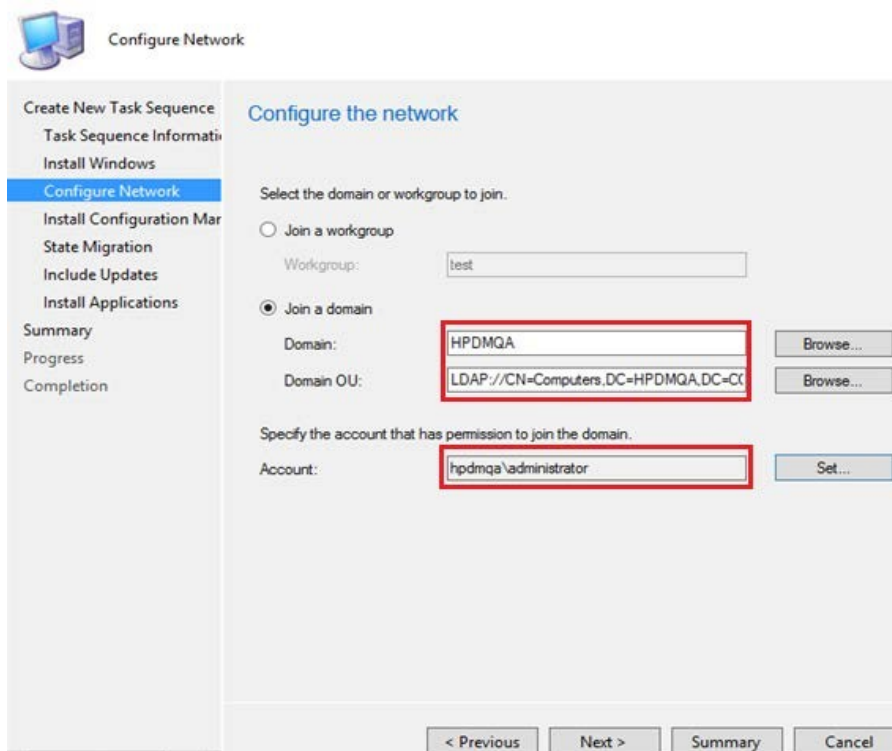


5. [Install the Windows operating system] (◆Windowsオペレーティング システムのインストール◆) ページで、以前作成したWindowsイメージ パッケージを選択します。

6. オペレーティングシステムのインストール前に、**[Partition and format the target computer before installing the operating system]**（◆ターゲット コンピューターでパーティション分割とフォーマットを行ってからオペレーティングシステムをインストール◆）を選択します。ターゲット デバイスでTPMモジュールを適切に設定していない場合は、**[Configure task sequence for use with BitLocker]**（◆BitLockerで使用するようタスク シーケンスを設定する◆）をオフにします。**[Product key]**（◆プロダクトキー◆）は指定しないでください。
7. **[Enable the account and specify the local administrator password]**（◆アカウントを有効にしてローカル管理者パスワードを指定する◆）を選択し、パスワードを入力して確認します。「付録E — 既知の問題および解決策」を参照してから次へ進んでください。
8. **[次へ]**を選択します。



9. **[Configure the network]**（◆ネットワークの構成◆）ページで、目的の構成を指定して**[次へ]**を選択します。

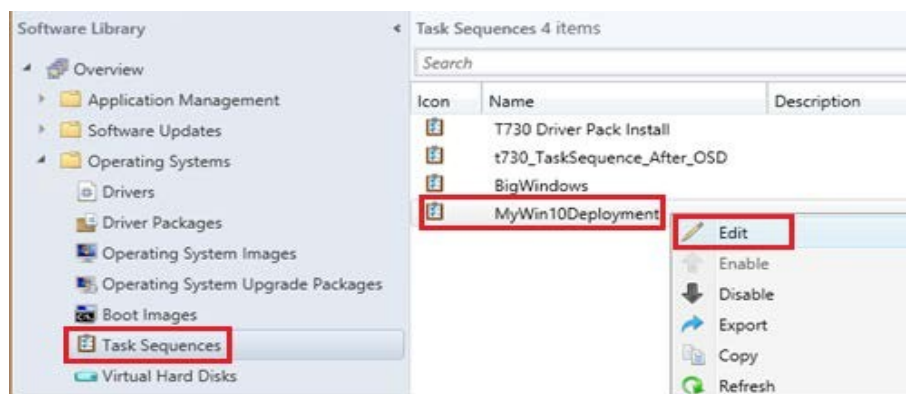


10. [Install the Configuration Manager Client] (◆ Configuration Managerクライアントのインストール◆) ページで**[参照]**を選択し、**[Configuration Manager Client Package]** (◆ Configuration Managerクライアントパッケージ◆) を選択します。
11. **[次へ]**を選択します。
12. [Configure State Migration] (◆ 状態移行の構成◆) ページで、目的の設定を選択して**[次へ]**を選択します。タスクシーケンスをUser State Migration Toolに組み込む場合は、ソースイメージや宛先イメージのRAMディスクが構成済みであり、最低250 MBの領域があり、USMT操作がサポートされることを確認します。タスクシーケンスを準備してUser State Migration Toolに組み込む方法について詳しくは、「[付録A — User State Migration Toolを追加するためのタスクシーケンスの準備](#)」を参照してください。

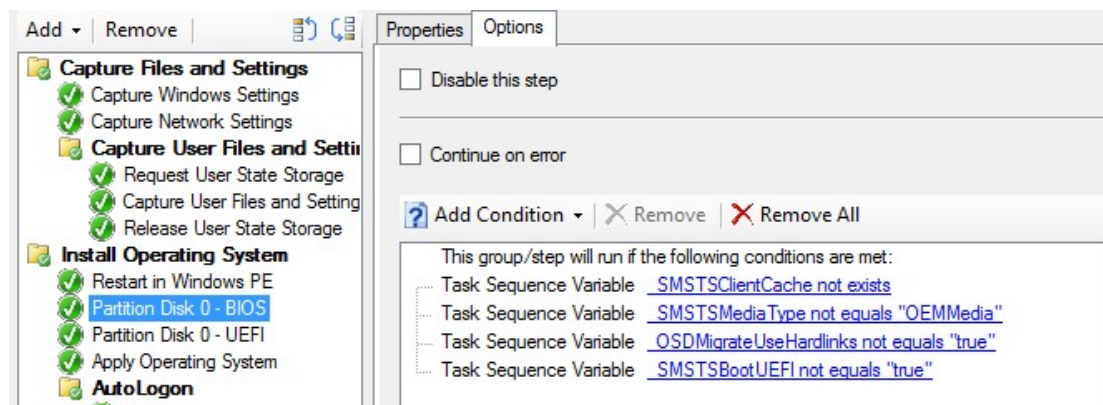
注：

[Configure State Migration] (◆ 状態移行の構成◆) ページで設定を選択した場合は、手順18から23を実行する必要があります。

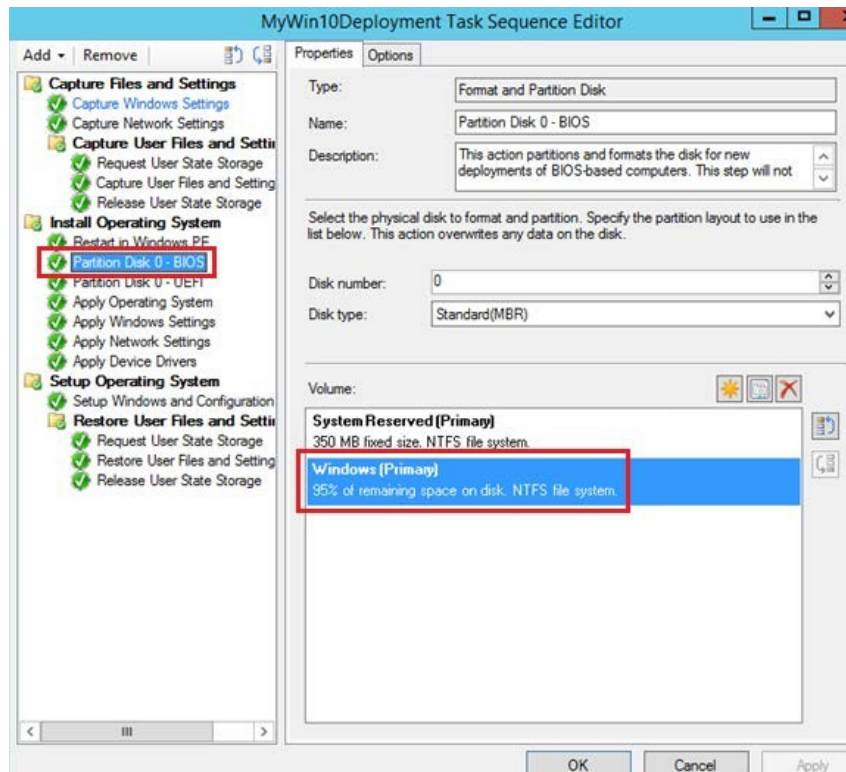
13. [Include Software Updates] (◆ ソフトウェア更新の組み込み◆) ページで、**[Do not install any software updates]** (◆ ソフトウェア更新をインストールしない◆) を選択して**[次へ]**を選択します。
14. [Install Applications] (◆ アプリケーションのインストール◆) ページでは、何も選択しないで**[次へ]**を選択します。
15. [Summary] (◆ 概要◆) ページで**[次へ]**を選択します。
16. ウィザードが完了したら、**[閉じる]**を選択します。
17. 展開タスクシーケンスを右クリックし、**[編集]**を選択します。



18. [Task Sequence Editor] (◆ タスクシーケンスエディター◆) で**[Partition Disk 0 - BIOS]** (◆ パーティションディスク0 - BIOS◆) を選択します。**[Options]** (◆ オプション◆) タブを選択し、実行条件を確認します。



19. **【プロパティ】**タブを選択し、**【Windows (Primary)】** (◆Windows (プライマリ)◆) をダブルクリックしてプロパティを編集します。

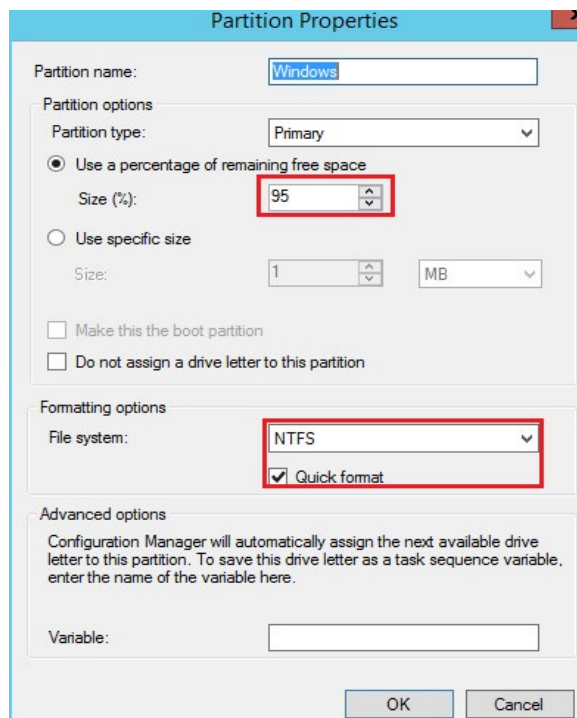


20. **【Partition Properties】** (◆パーティションのプロパティ◆) ダイアログの**【Use a percentage of remaining free space】** (◆残りの空き領域のパーセンテージを使用◆) に「95」と入力します。

注：

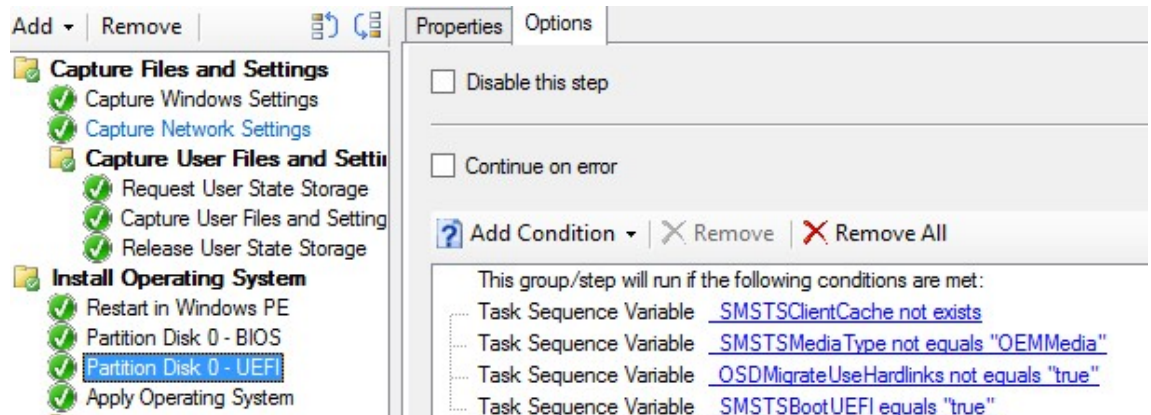
この値を100のままにすると、展開が失敗します。Windowsで書き込みフィルターパーティションを作成できないためです。

21. フォーマットingのオプションで**【Quick format】** (◆クイックフォーマット◆) を選択します。**【OK】**を選択してウィンドウを閉じます。

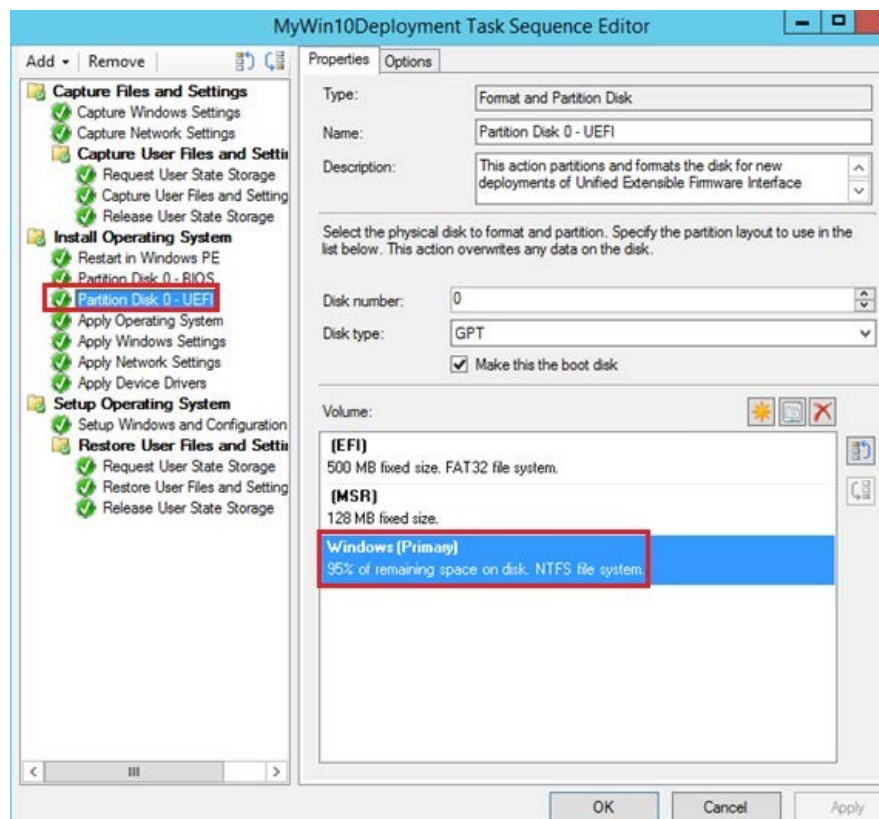


22. **【Task Sequence Editor】** (◆タスク シーケンス エディター◆) を再び開きます。

23. [Task Sequence Editor] (◆タスクシーケンスエディター◆) で**[Partition Disk 0 - UEFI]** (◆パーティションディスク0 - UEFI◆) を選択します。**[Options]** (◆オプション◆) タブを選択し、実行条件を確認します。



24. **[Windows (Primary)]** (◆Windows (プライマリ)◆) をダブルクリックし、プロパティを編集します。

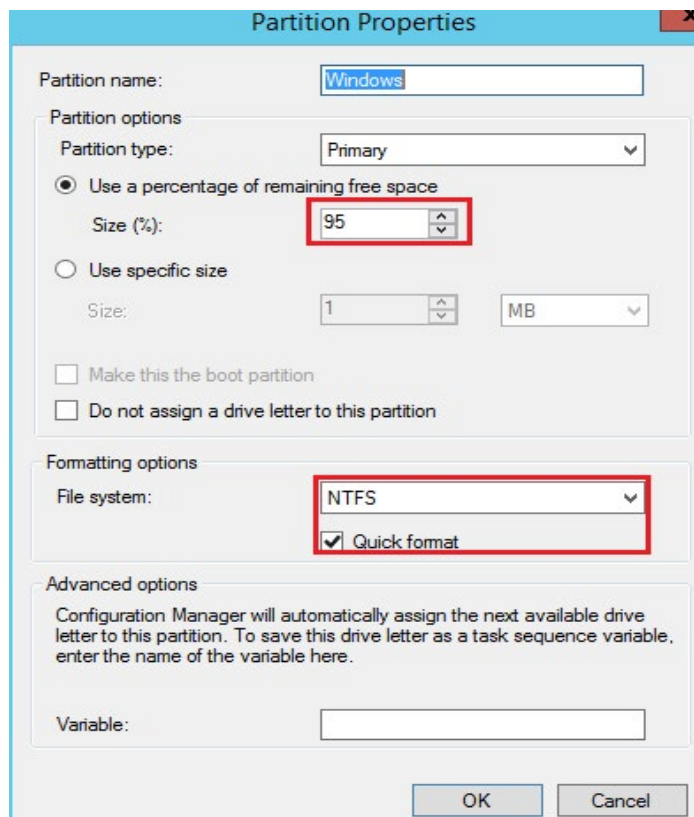


25. **[Partition Properties]** (◆パーティションのプロパティ◆) ダイアログの**[Use a percentage of remaining free space]** (◆残りの空き領域のパーセンテージを使用◆) に「95」と入力します。

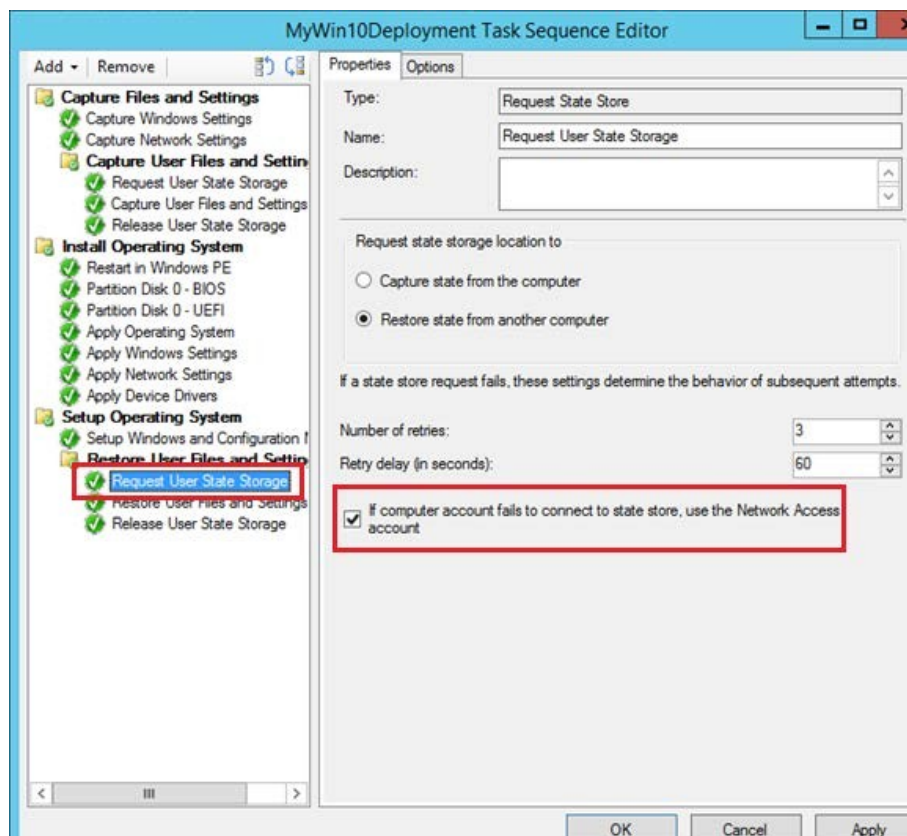
注：

この値を100のままにすると、展開が失敗します。Windowsで書き込みフィルター パーティションを作成できないためです。

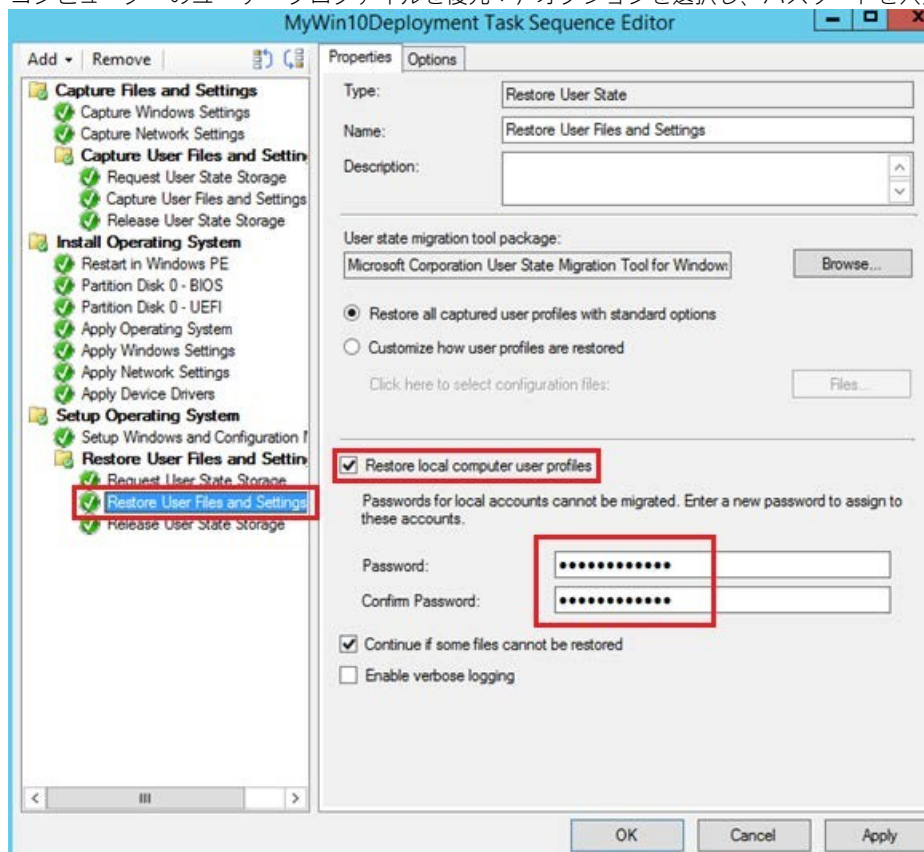
26. フォーマットオプションで**[Quick format]**（◆クイック フォーマット◆）を選択します。**[OK]**を選択してウィンドウを閉じます。



27. **[Task Sequence Editor]**（◆タスク シーケンス エディター◆）を再び開きます。
28. [Restore User Files and Settings]（◆ユーザー ファイルと設定の復元◆）グループで**[Request User State Storage]**（◆ユーザー状態の保存を要求◆）を選択し、**[If computer account fails to connect to state store, use the Network Access account]**（◆コンピューター アカウントでステート ストアに接続できない場合は、ネットワーク アクセス アカウントを使用する◆）オプションを選択します。



29. [Restore User Files and Settings] (◆ユーザーファイルと設定の復元◆) グループで**[Restore User Files and Settings]** (◆ユーザーファイルと設定の復元◆) を選択してから、**[Restore local computer user profiles]** (◆ローカルコンピューターのユーザープロファイルを復元◆) オプションを選択し、パスワードを入力して確認します。



30. **[適用]**、**[OK]**の順に選択して**[Task Sequence Editor]** (◆タスクシーケンスエディター◆) を閉じます。

注：

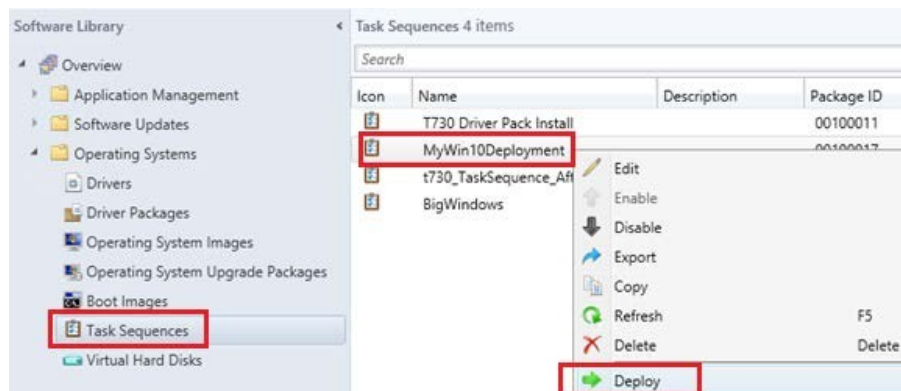
Thin Clientに十分なディスク領域がなく、ダウンロードしたWIMおよび展開したコンテンツを両方ともローカルに保存できない場合は、さらに設定を変更する必要があります。

[Task Sequence Editor] (◆タスクシーケンスエディター◆) で**[Apply Operating System]** (◆オペレーティングシステムの適用◆) を選択し、**[Options]** (◆オプション◆) タブを選択します。**[Access content directly from the distribution point]** (◆配布ポイントから直接コンテンツにアクセスする◆) を選択します。

[Operating System Images] (◆オペレーティングシステムイメージ◆) で参照イメージパッケージを右クリックし、**[プロパティ]**を選択します。[Data Access] (◆データアクセス◆) タブで**[Package share settings]** (◆パッケージ共有設定◆) を設定します。

Windows参照イメージの展開

1. 新しいタスクシーケンスを右クリックし、**[デプロイ]**を選択します。



2. タスクシーケンスの展開先コレクションを指定し、**[次へ]**を選択します。

General

Specify general information for this deployment

Task sequence: MyWin10Deployment

Collection: T730

Use default distribution point groups associated to this collection

Automatically distribute content for dependencies

Comments (optional):

< Previous Next > Summary Cancel

3. [Purpose] (◆目的◆) 項目で**必要な領域**を選択します。手順2で正しいコレクションを指定したことを確認します。
4. このタスク シーケンスを使用可能にするオプションを**[Configuration Manager Clients, media and PXE]** (◆ Configuration Managerクライアント、メディア、およびPXE◆) に設定します。

Deployment Settings

Specify settings to control how this software is deployed

Action: Install

Purpose: Required

Pre-deploy software to the user's primary device

Send wake-up packets

Allow clients on a metered Internet connection to download content after the installation deadline, which might incur additional costs

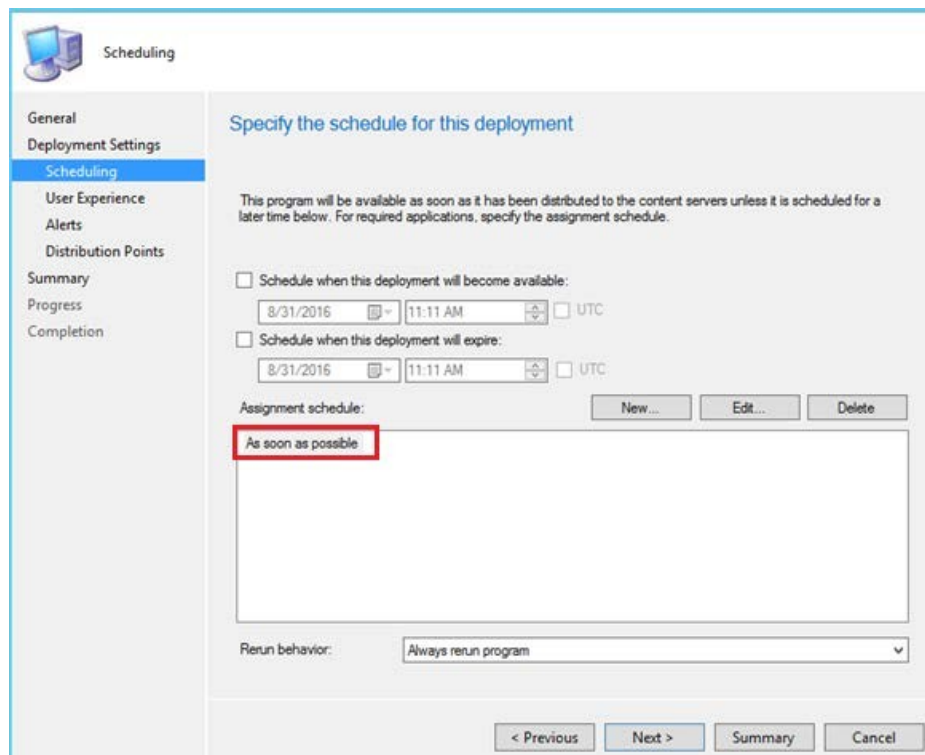
Specify whether to make this task sequence available to Configuration Manager clients, and whether it is available to run when you deploy an operating system by using boot media, prestaged media, or PXE.

Make available to the following:

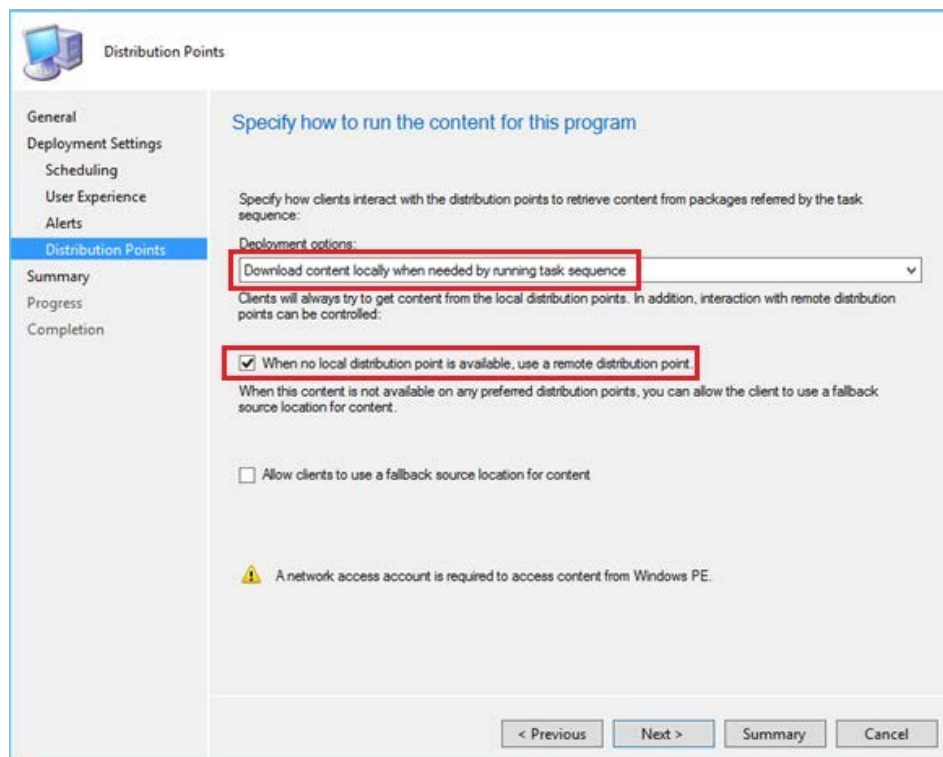
Configuration Manager clients, media and PXE

< Previous Next > Summary Cancel

5. **次へ**を選択します。
6. 目的の展開スケジュールを指定し、**次へ**を選択します。PXE主導の展開では、必須の割り当てスケジュールを作成する必要があります。



7. [User Experience] (◆ユーザー エクスペリエンス◆) ページでは、初期設定のオプションを変更しないでください。**[次へ]**を選択します。
8. [Alert] (◆警告◆) ページでは、初期設定のオプションを変更しないでください。**[次へ]**を選択します。
9. [Distribution Points] (◆配布ポイント◆) ページでは、**[Download content locally when needed by running task sequence]** (◆タスク シーケンスの実行で必要になったときに、コンテンツをローカルにダウンロードする◆) 展開オプションを選択し、**[When no local distribution point is available, use a remote distribution point]** (◆ローカルの配布ポイントを利用できない場合は、リモートの配布ポイントを使用する◆) オプションを選択します。



10. **[次へ]**を選択します。
11. [Summary] (◆概要◆) ページで**[次へ]**を選択します。
12. **[閉じる]**を選択します。

注：

タスクシーケンスが正常に終了すると、書き込みフィルターのステータスは初期設定で無効になります。

展開後のタスク

展開したイメージは、さらにカスタマイズが必要になることがあります。たとえば前の手順では、書き込みフィルターのステータス、ドメインメンバーシップ、自動ログオンのオプションを設定していません。

初回起動時に、コマンドラインまたはスクリプトを実行して、これらのオプションをカスタマイズすることをおすすめします。書き込みフィルターを有効にする方法、およびスクリプト例について詳しくは、「[付録B — 展開タスクシーケンスによる書き込みフィルターの有効化](#)」を参照してください。

注：

Windows Embedded Standard 7Pイメージを展開しても、タイムゾーンや地域などの設定をクライアント側から設定するまで、システムは自動的に起動しません。

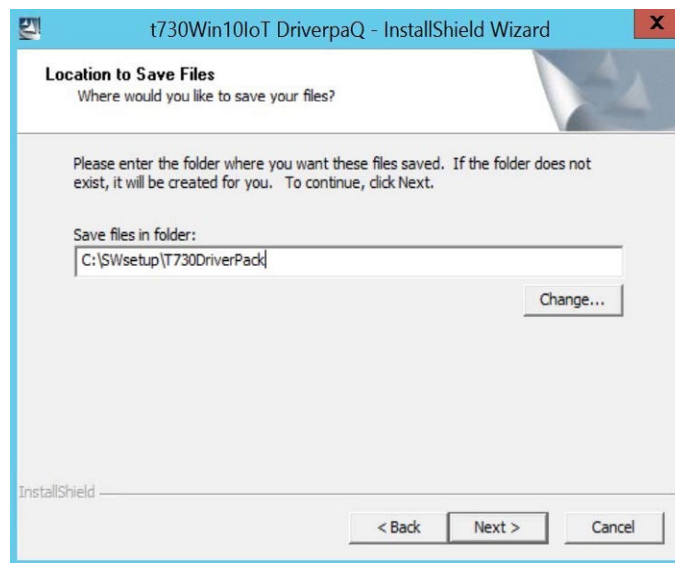
既存のオペレーティングシステム展開タスクの変更

管理機能ドライバーパックのダウンロードと展開

1. Thin Clientモデルの適切なドライバーパックを<http://www.hp.com/go/bizsupport>からダウンロードします（Thin Clientモデルを検索し、【ドライバー、ソフトウェア、およびファームウェア】を選択します）。
2. ドライバーパッケージを実行し、ファイルの展開先の場所を指定します。

注：

初期設定では、このドライバーパッケージはc:\swsetupに展開されます。

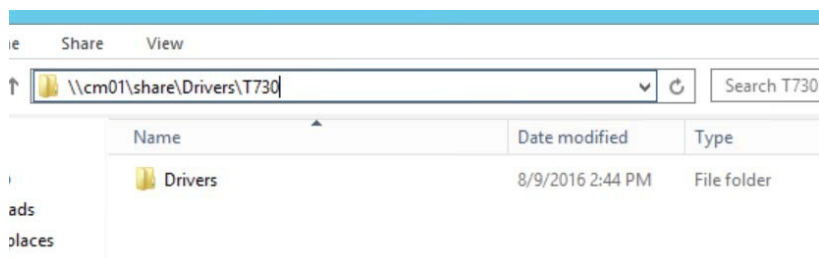


完了すると、展開されたコンテンツは次のようになります。

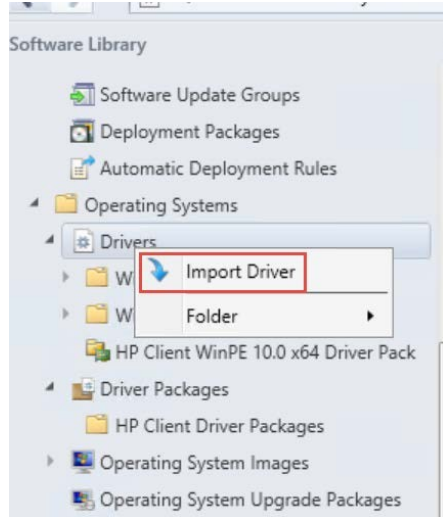
Name	Date modified	Type	Size
Drivers	8/31/2016 4:13 PM	File folder	
SCCM	8/31/2016 4:13 PM	File folder	
Install	5/17/2016 1:41 PM	Application	697 KB
ReleaseNote	5/18/2016 4:17 PM	Text Document	4 KB
Second	5/17/2016 1:56 PM	Application	3,187 KB
UWF	2/17/2016 12:29 PM	Windows Installer ...	9,537 KB

オペレーティングシステム展開タスクのドライバー パッケージの作成

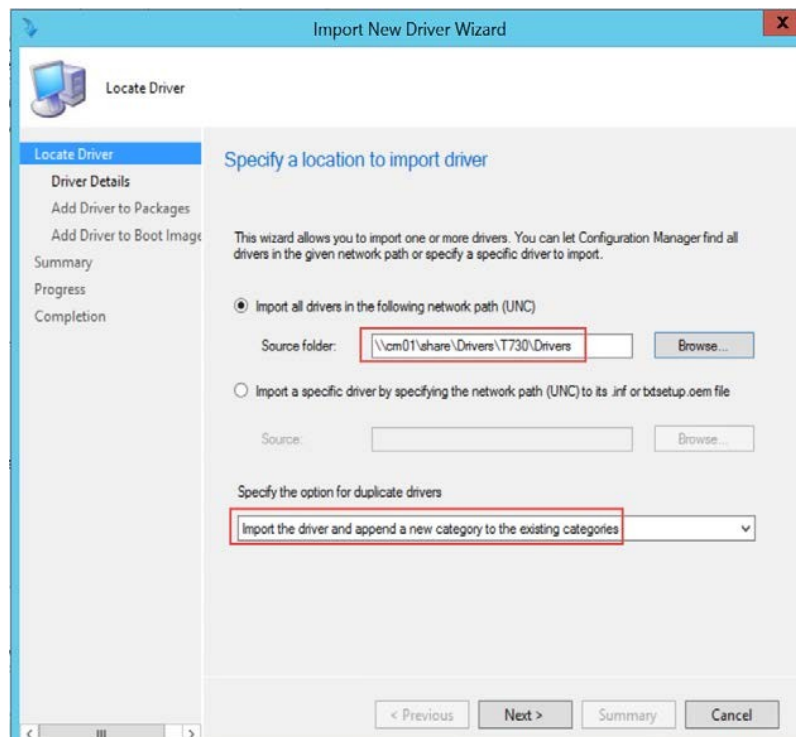
1. ドライバーを保存するための共有フォルダーをConfiguration Managerサーバーに作成します。
2. 「管理機能ドライバー パックのダウンロードと展開」で作成したフォルダーをこの共有フォルダーにコピーします。



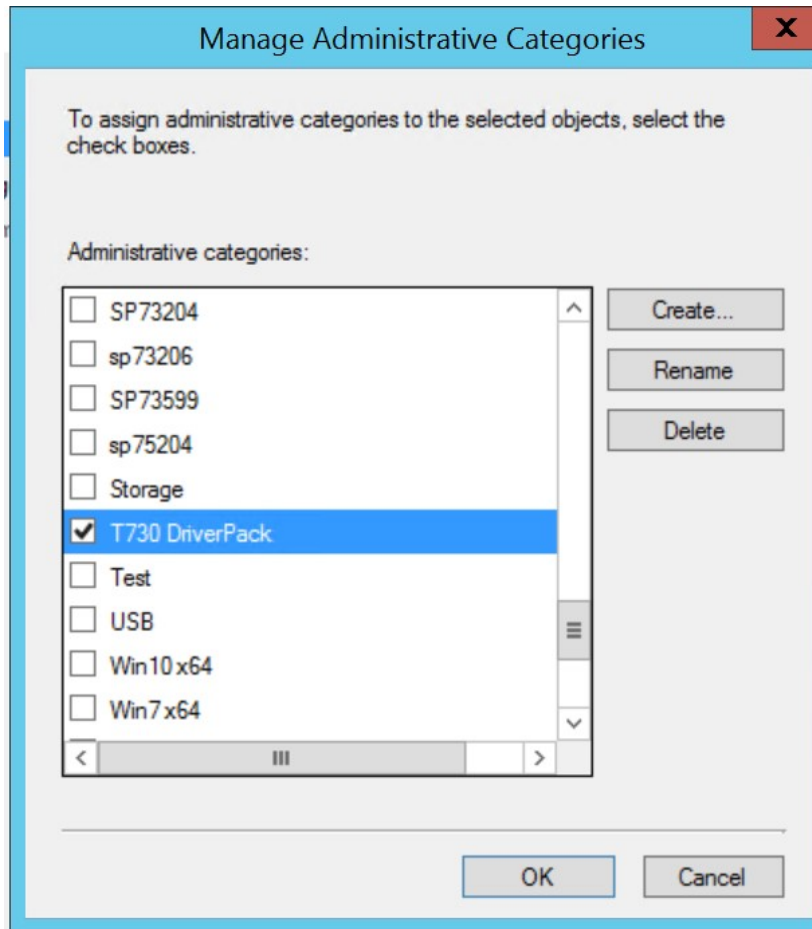
3. **[System Center Configuration Manager]**, **[Software Library]** (◆ソフトウェア ライブラリ◆)の順に選択し、**[Drivers]** (◆ドライバー◆)を右クリックして**[Import Driver]** (◆ドライバーのインポート◆)を選択します。



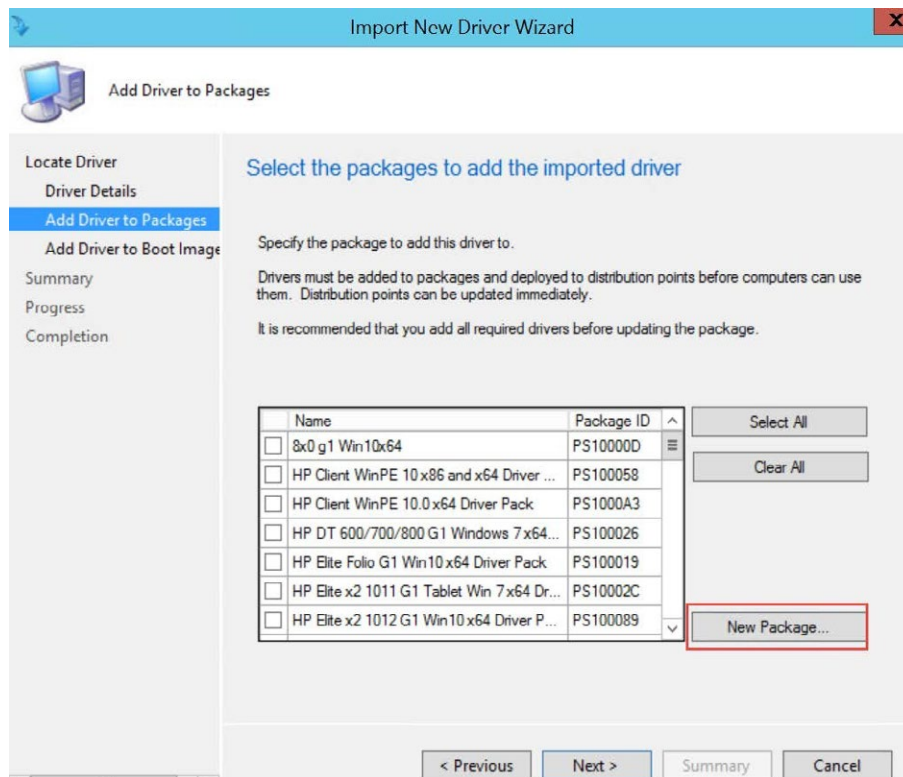
4. **[Import all drivers in the following network path (UNC)]** (◆次のネットワークパス(UNC)にあるすべてのドライバーをインポートする◆)を選択し、**[参照]**を選択してから共有フォルダーを選択します。[Specify the option for duplicate drivers] (◆重複ドライバーのオプションを指定する◆)で、**[Import the driver and append a new category to the existing categories]** (◆ドライバーをインポートして、新しいカテゴリを既存のカテゴリに追加する◆)を選択することをおすすめします。



5. **【作成】**を選択してドライバー パッケージに管理カテゴリを作成し、そのカテゴリを選択してドライバー パッケージに割り当てます。**【OK】**を選択します。



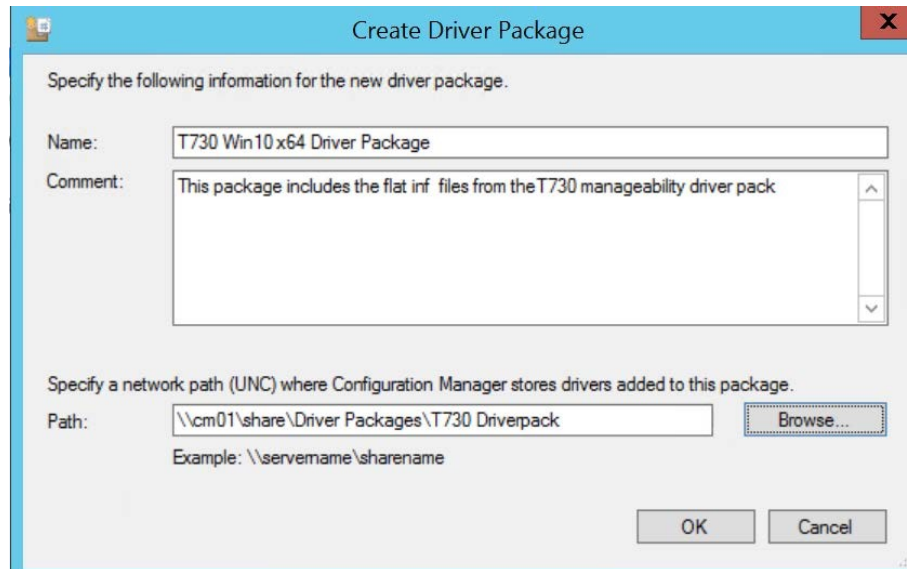
6. [Add Driver to Packages] (◆ ドライバーをパッケージに追加 ◆) ページで**【New Package】** (◆ 新しいパッケージ ◆) を選択します。



7. パッケージの**名前**を入力して**【参照】**を選択し、ドライバー パッケージを保存する場所を指定します。**【OK】**を選択します。

注：

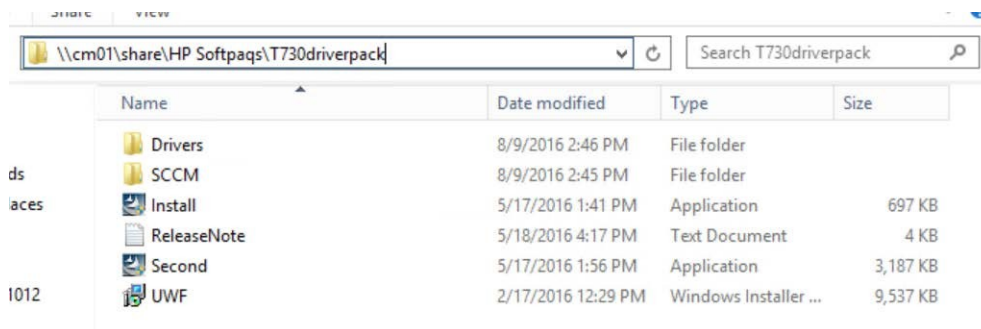
これらのドライバーをブート イメージに保存しないでください。適切なWinPEドライバー パックをhttp://ftp.hp.com/pub/caps-softpaq/cmit/HP_WinPE_DriverPack.html（英語サイト）から利用することをおすすめします。



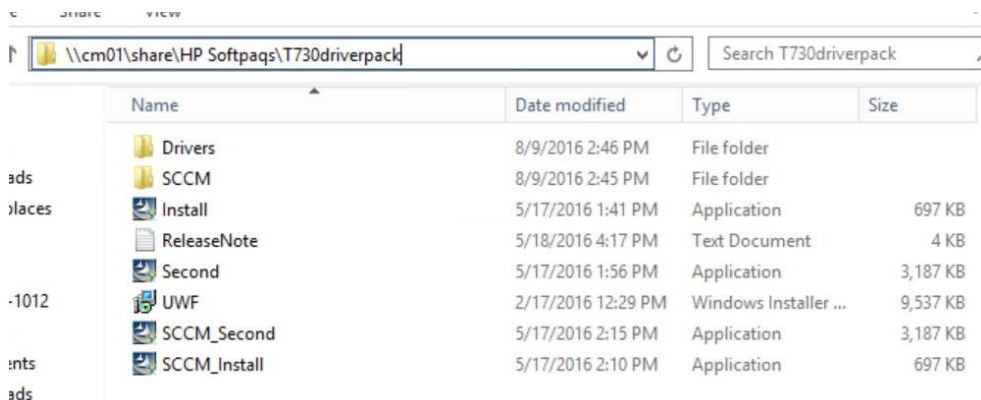
8. ドライバー パッケージを配布ポイントに配布します。

HP Thin Clientソフトウェア設定用ドライバー パッケージの作成

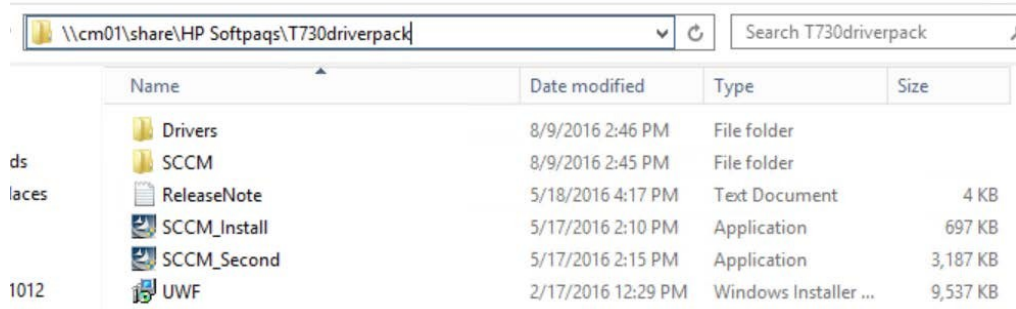
1. Thin Client管理機能ドライバー パッケージのコンテンツを保存するための共有ネットワーク フォルダを、Configuration Managerサーバーに作成します。
2. 展開したドライバー パックのコンテンツ全体を、この新しい場所にコピーします。



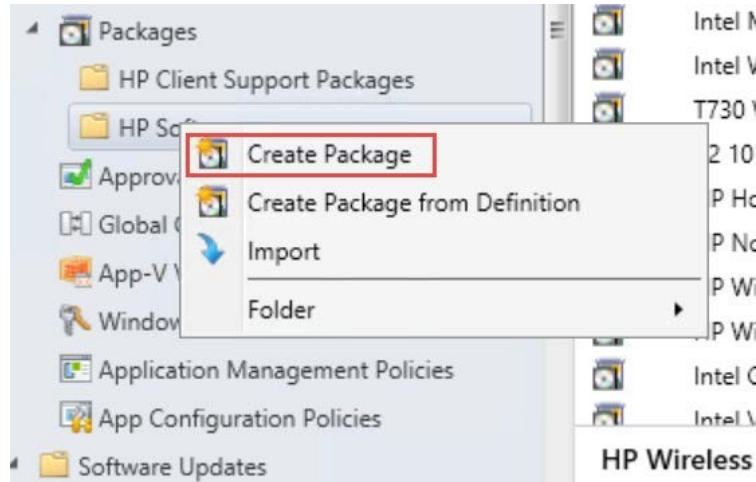
3. **SCCM** フォルダからパッケージのルート フォルダに.exeファイルをコピーします。



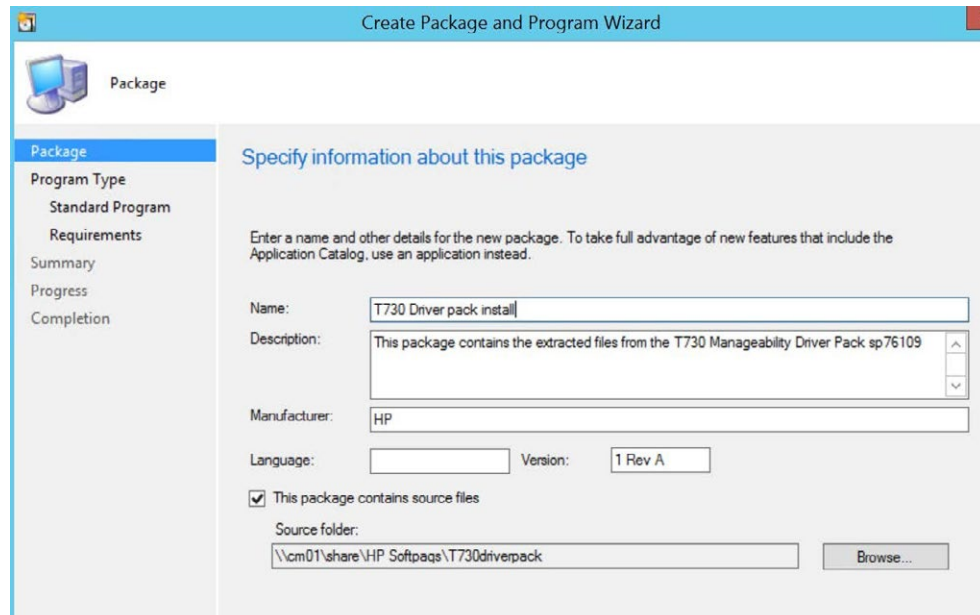
4. パッケージのルートフォルダーから**Install.exe**ファイルおよび**Second.exe**ファイルを削除します。



5. **[System Center Configuration Manager]**、**[Software Library]** (◆ソフトウェア ライブラリ◆) の順に選択し、**[Packages]** (◆パッケージ◆) を右クリックしてから**[Create Package]** (◆パッケージの作成◆) を選択します。



6. 必要な情報を指定して、**[This package contains source files]** (◆このパッケージにソースファイルを含める◆) を選択し、**[参照]**を選択してから、手順1で作成した共有フォルダーを選択します。



7. [Program Type] (◆プログラムの種類◆) ページで**[Standard program] (◆標準プログラム◆)** を選択します。

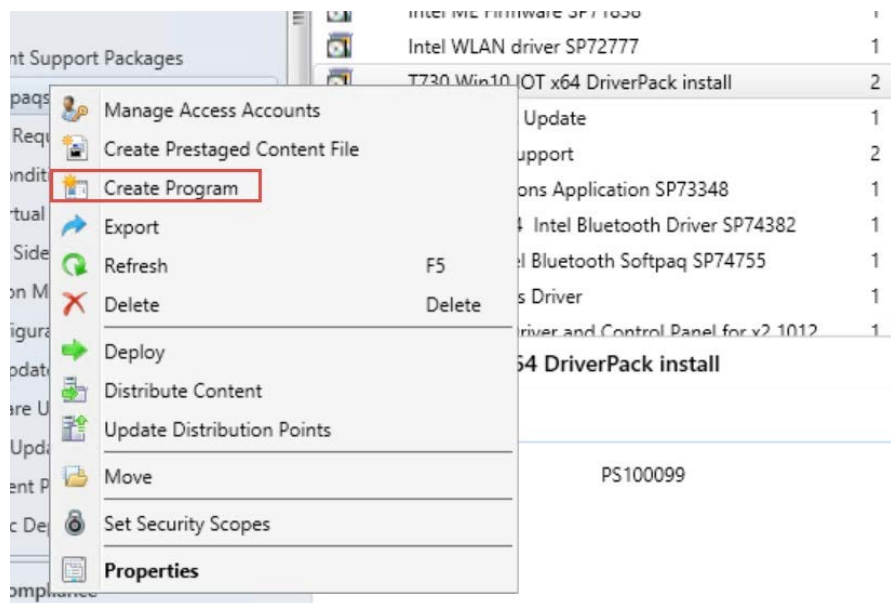
The screenshot shows the 'Create Package and Program Wizard' window. The title bar reads 'Create Package and Program Wizard'. The main window has a blue header with the title. Below the header, there is a 'Program Type' section. On the left, there is a navigation pane with the following items: Package, Program Type (selected), Standard Program, Requirements, Summary, Progress, and Completion. The main area is titled 'Choose the program type that you want to create'. It contains three radio button options:
1. Standard program: Create a program for a client computer.
2. Program for device: Create a program for a device.
3. Do not create a program: Create a package, but do not create a program. You can use the Create Program Wizard to add a program later.

8. **名前**を指定し、[Command line] (◆コマンドライン◆) で**[SCCM_Install.exe]**を選択し、[Program can run] (◆プログラムの実行◆) で**[Whether or not a user is logged on]** (◆ユーザーがログオンしているかどうかに関係なく◆) を選択します。

The screenshot shows the 'Specify information about this standard program' screen. It contains several input fields and dropdown menus:
- Name: SCCM Install #1
- Command line: SCCM_Install.exe (highlighted with a red box)
- Startup folder: (empty)
- Run: Normal
- Program can run: Whether or not a user is logged on (highlighted with a red box)
- Run mode: Run with administrative rights
- There is an unchecked checkbox: Allow users to view and interact with the program installation
- Drive mode: Requires drive letter
- At the bottom, there is a partially visible checkbox: Reconnect to distribution point at log on

9. [Requirements] (◆要件◆) ページでは初期設定を変更しないでください。

10. 新しいパッケージを右クリックし、**[Create Program]**（◆プログラムの作成◆）を選択します。



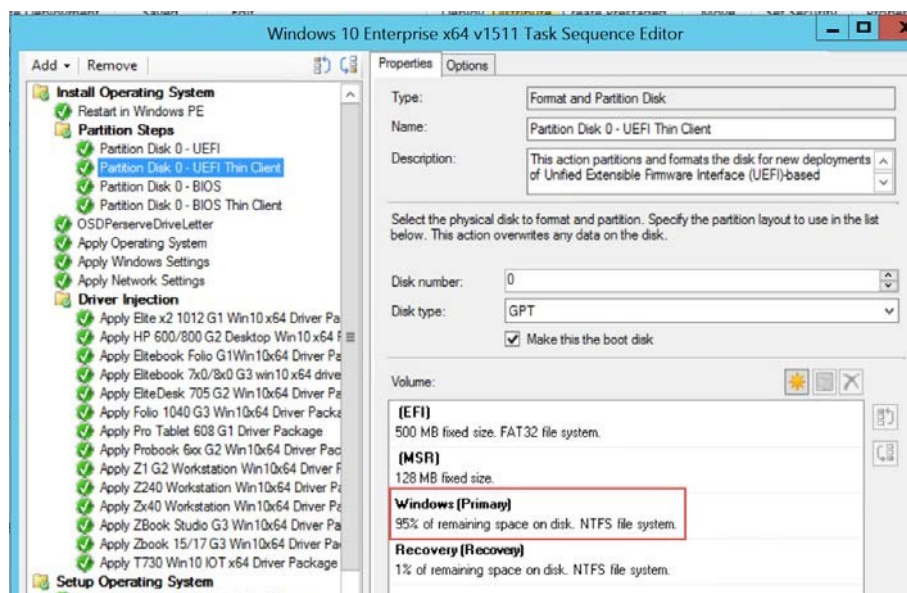
11. 手順7および8を繰り返しますが、[Command line]（◆コマンドライン◆）で**SCCM_Second.exe**を指定します。

The screenshot shows the 'Specify information about this standard program' dialog box. The 'Command line' field is highlighted with a red rectangular box and contains the text 'SCCM_Second.exe'. Other fields include: Name (SCCM Install #2), Startup folder (empty), Run (Normal), Program can run (Whether or not a user is logged on), Run mode (Run with administrative rights), Drive mode (Requires drive letter), and checkboxes for 'Allow users to view and interact with the program installation' and 'Reconnect to distribution point at log on'.

12. パッケージを適切な配布ポイントに配布します。

既存のWindows 10オペレーティング システム展開タスクの変更によるHP Thin Clientのサポート

- パーティション分割ステップを追加して、書き込みフィルター用に使用する領域を残すようにタスク シーケンスを設定します。**[Windows (Primary)]** (◆Windows (プライマリ) ◆) を**[Partition Disk 0 - BIOS]** (◆パーティション ディスク0 - BIOS ◆) と**[Partition Disk 0 - UEFI]** (◆パーティション ディスク0 - UEFI ◆) の両方に含めよう設定する必要があります。

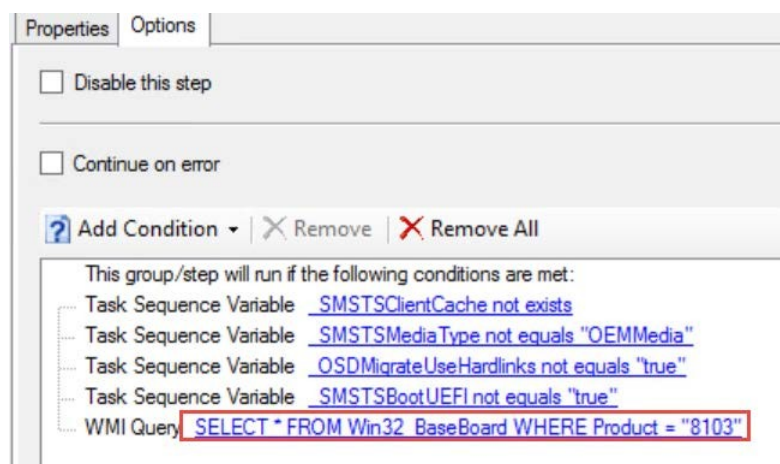


- 各「Thin Client」の[Partition Step] (◆パーティション分割ステップ◆) の[Options] (◆オプション◆) タブで**[Add Condition]** (◆条件の追加◆) を選択してWMIクエリの条件を追加し、使用中のHP Thin Clientモデルのみでこの手順を実行するようにします。

注

この例ではHP t730を使用し、SysIDは8103です。次のコマンドをThin Clientで実行して、各モデルに固有のSysIDを取得してください。

```
WMIIC baseboard get Product
```



3. 初期設定の (Thin Client以外の) [Partition Step] (◆パーティション分割ステップ◆) の[Options] (◆オプション◆) タブで【Add Condition】 (◆条件の追加◆) を選択してWMIクエリの条件を追加し、使用中のHP Thin Clientモデルでこれらのステップを実行しないようにします。

Properties Options

Disable this step

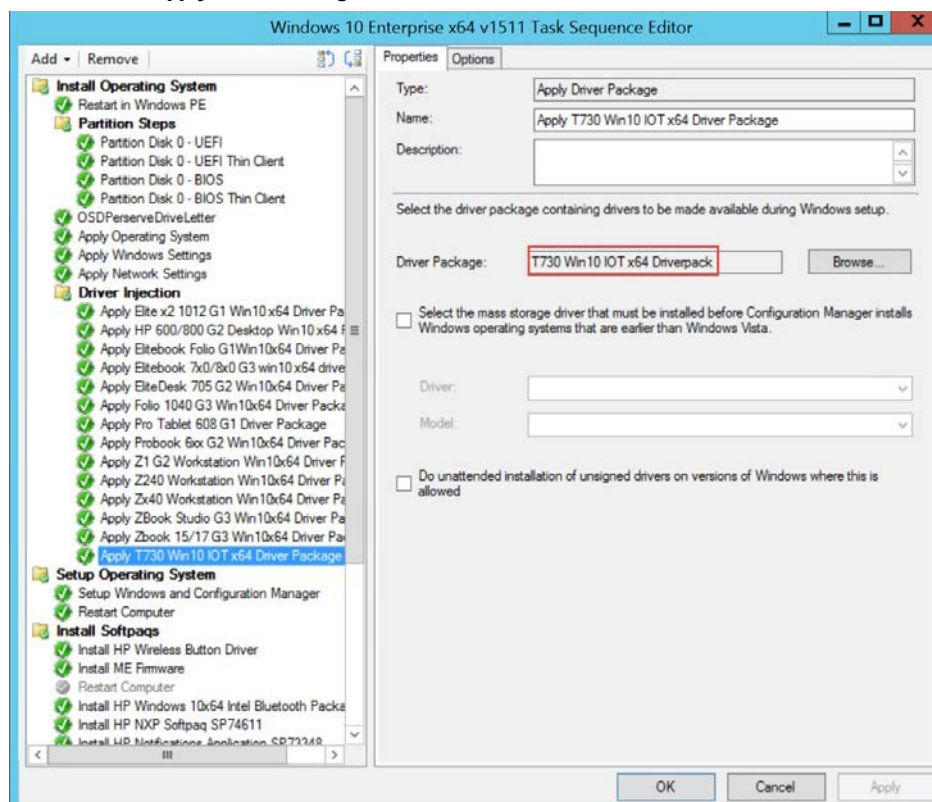
Continue on error

? Add Condition ▾ | ✕ Remove | ✕ Remove All

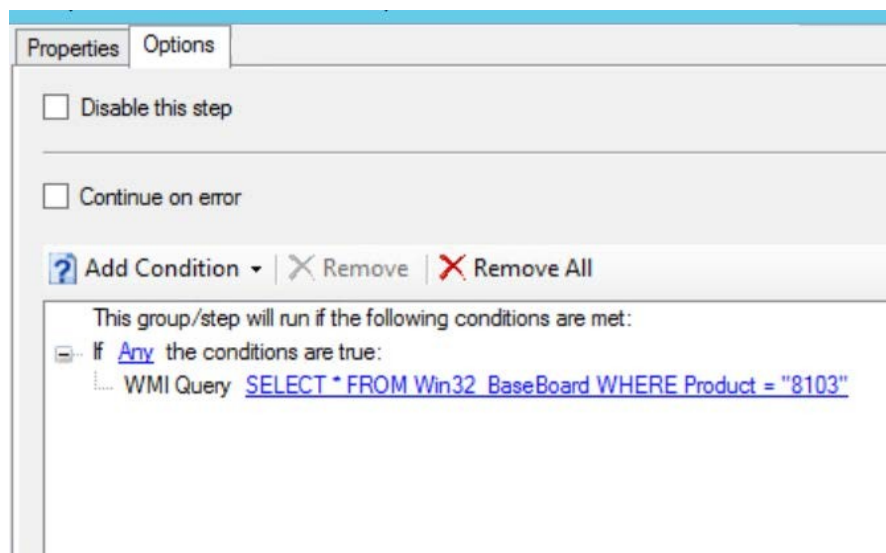
This group/step will run if the following conditions are met:

- Task Sequence Variable [_SMSTSClientCache not exists](#)
- Task Sequence Variable [_SMSTSMediaType not equals "OEMMedia"](#)
- Task Sequence Variable [_QSDMigrateUseHardlinks not equals "true"](#)
- Task Sequence Variable [_SMSTSBotUEFI equals "true"](#)
- WMI Query [SELECT * FROM Win32_BaseBoard WHERE NOT Product = "8103"](#)

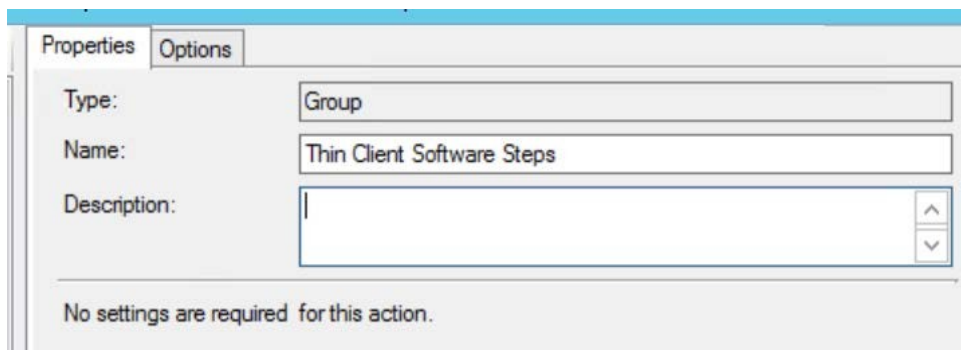
4. 以前作成したドライバー パッケージを使用して、タスク シーケンスの[Driver Injection] (◆ドライバー導入◆) ステップに、**[Apply Driver Package]** (◆ドライバーパッケージを適用する◆) ステップを追加します。



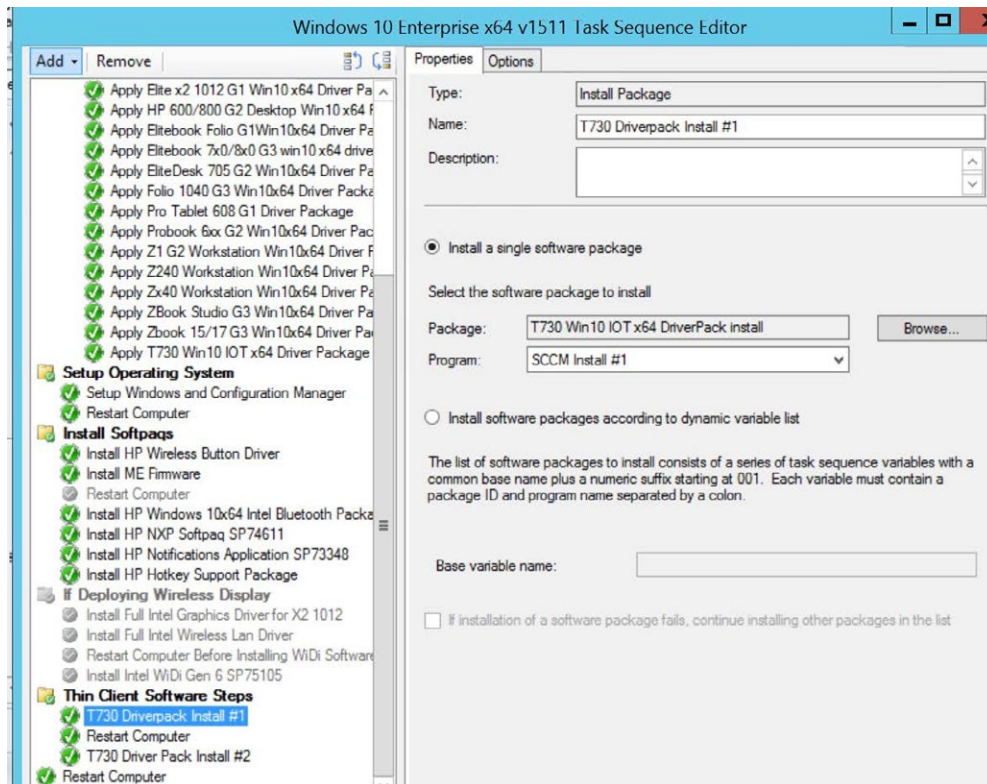
5. このドライバー パッケージのステップに**[WMI Query]** (◆WMIクエリ◆) を追加し、使用中のHP Thin Clientモデルでのみ、これを実行するようにします。



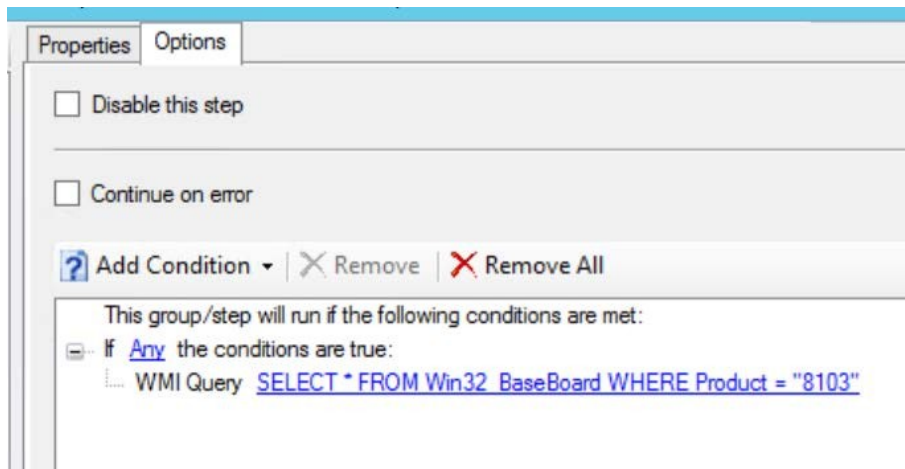
6. タスク シーケンスの最後に新しいグループを追加し、Thin Clientソフトウェア インストール ステップを含めます。



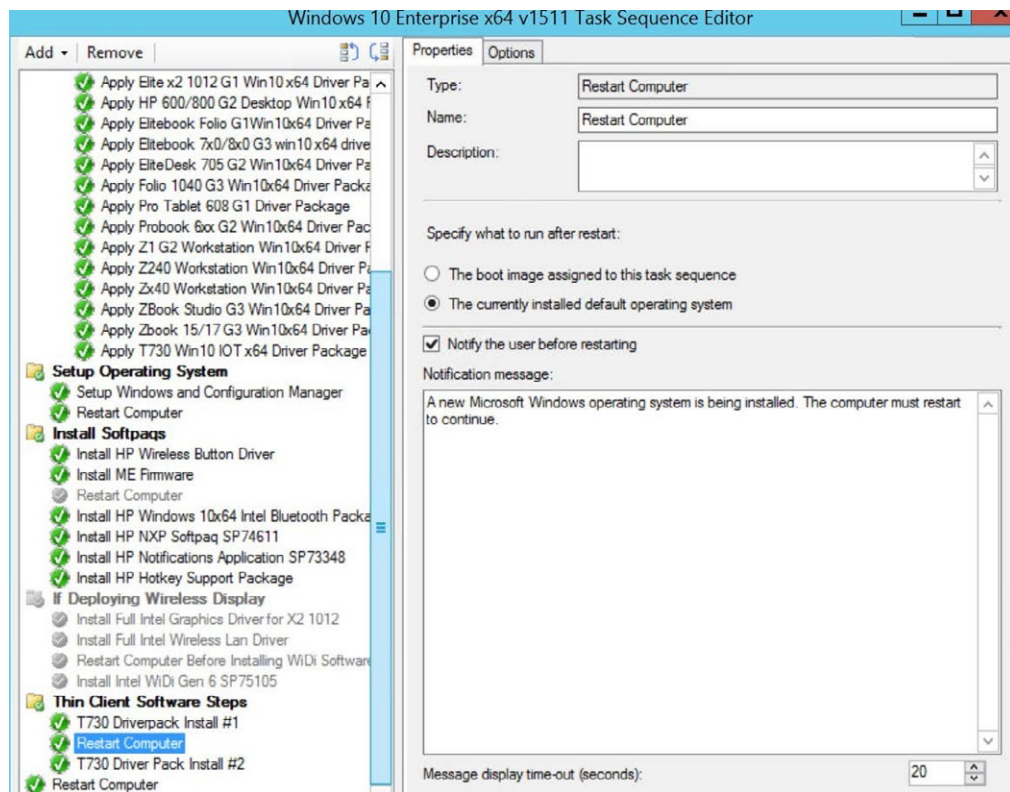
7. このグループに[Install Package] (◆パッケージ インストール◆) ステップを追加します。以前作成したドライバーパッケージを選択し、[SCCM Install #1] (◆SCCMインストール #1◆) をプログラムとして選択します。



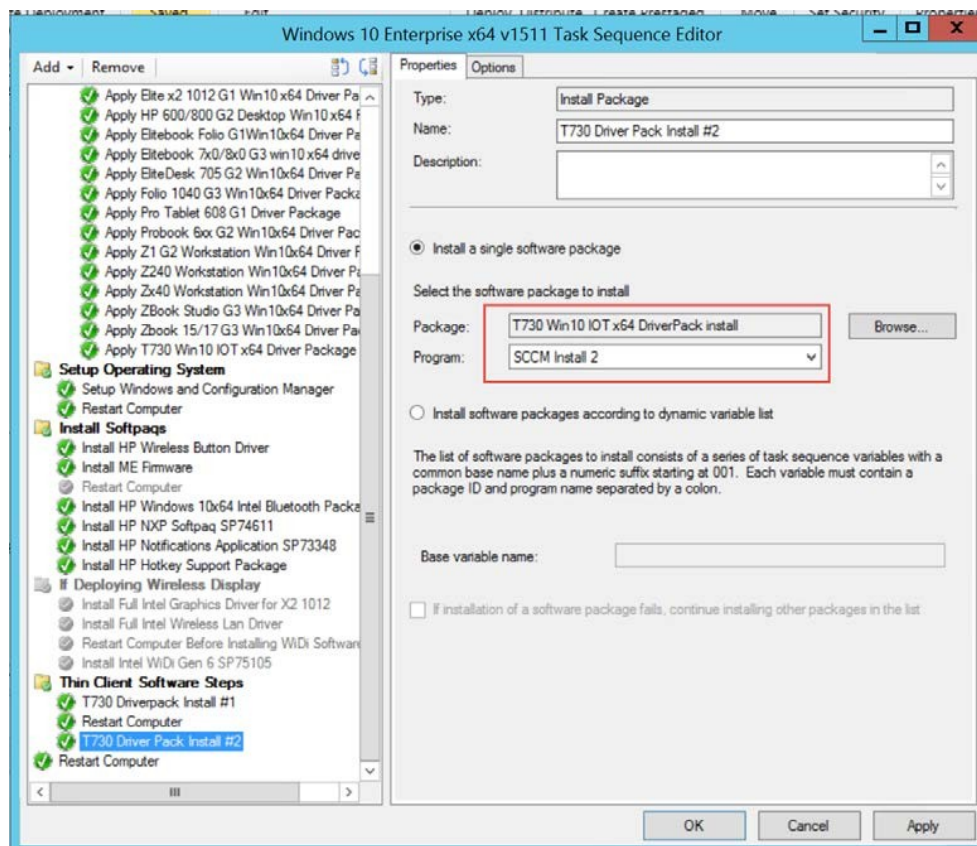
8. [Add Condition] (◆条件の追加◆) を選択してWMI条件を追加し、使用中のHP Thin Clientモデルでのみこれを実行するようにします。



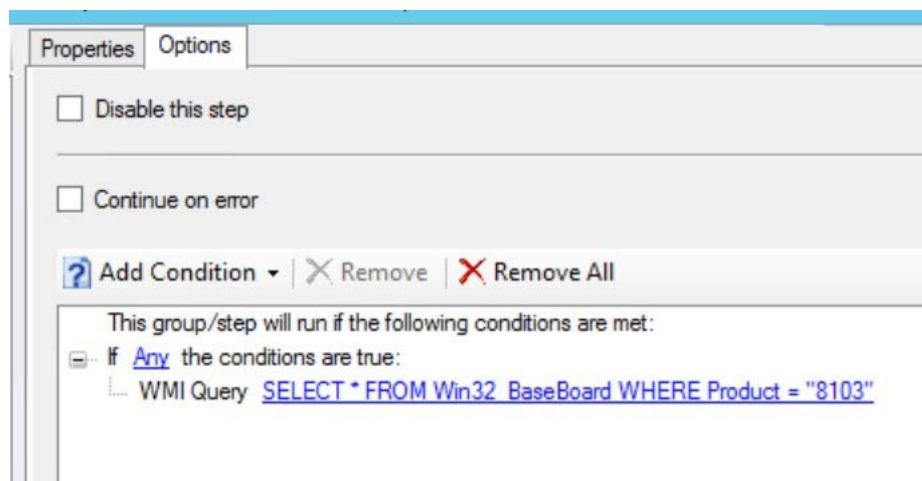
9. 現在インストールしている初期設定のオペレーティング システムで起動させるため、**[Restart Computer]** (◆コンピューターの再起動◆) ステップを追加します。



10. このグループに**[Install Package]** (◆パッケージ インストール◆) ステップを追加します。以前作成したドライバパッケージを選択し、**[SCCM Install #2]** (◆SCCMインストール#1◆) をプログラムとして選択します。



11. **[Add Condition]** (◆条件の追加◆) を選択してWMI条件を追加し、使用中のHP Thin Clientモデルでのみこれを実行するようにします。



12. 最後の再起動をタスク シーケンスに追加することをおすすめします。

付録A — User State Migration Toolを追加するためのタスク シーケンスの準備

USMT操作をサポートするには、ソース コンピューターに最低250 MBのハード ディスク領域が必要です。詳しくは、[https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd560770\(v=ws.10\).aspx#bkmk_spacereqs](https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd560770(v=ws.10).aspx#bkmk_spacereqs)を参照してください。

HP Thin ClientのWindowsイメージの場合、USMTでは初期設定でRAMディスクZ:が使用されます。次の手順を使用して、ディスク サイズを拡張してからイメージのキャプチャと展開を行ってください。

RAMディスクを拡張するには、以下の操作を行います。

- 書き込みフィルターが有効である場合は、レジストリ値を変更してコミットします。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\ControlSet001\Services\RamDrive\Parameters\DiskSize
- 次のコマンドラインを実行します。
reg add HKLM\SYSTEM\ControlSet001\services\Ramdrive\Parameters/v DiskSize /t REG_DWORD /d 0x10400000 /f

付録B — 展開タスク シーケンスによる書き込みフィルターの有効化

オペレーティング システムの展開プロセスの一部として書き込みフィルターを有効にするには、初回起動時にコマンド ラインまたはスクリプトを実行することをおすすめします。書き込みフィルターを有効にするには、以下の操作を行います。

- 展開中に管理者を自動的にログオンするように、**オペレーティング システム タスク シーケンス**を編集します。
- unattend.xml**を使用して**初回起動コマンド**を作成します。
- オペレーティング システムの展開が完了すると、タスク シーケンスが終了し、すべての制御がオペレーティング システムに戻ります。初回起動コマンドでは次のことを実行します。
 - 展開後に管理者として自動的にログオンします。
 - 書き込みフィルターを有効にします。
 - BCD Fixupオプションを設定します。Enhanced Write FilterおよびFile-Based Write Filterでは、IGNOREALLFAILSポリシーをBCD (Boot Configuration Data) に含める必要があります。このフラグを使用すると、ブートプロセス中に安全でないシャットダウンに関するエラー ダイアログが表示されなくなります。一般的にWindows Embedded Standard 7では、書き込みフィルターを有効にすると、このポリシーがBCDで自動的に設定され、ブート エラーが防止されます。Configuration Managerの展開タスク シーケンスに従うと、これが自動的に設定されないことがあり、その場合には手動で設定する必要があります。
 - [Administrator Autologin on next reboot]** (◆ 次回再起動時の管理者の自動ログイン ◆) を削除するか、**[User Autologin]** (◆ ユーザー自動ログイン ◆) を設定します。
 - 90秒後にシステムを再起動します。
- 再起動後、書き込みフィルターは有効になり、Thin Clientは使用可能になります。

次のコードは、unattend.xmlファイルの<settings pass="oobeSystem">セクションに組み込む、初回起動コマンドです。

```
<FirstLogonCommands>
    <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <Order>1</Order>
        <CommandLine>ewfmgr c: /enable </CommandLine>
        <Description>Enable EWF WF </Description>
    </SynchronousCommand>
    <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <Order>2</Order>
        <CommandLine>bcdedit /set {current} bootstatuspolicy
ignoreallfailures
        </CommandLine>
        <Description>Fix BCD </Description>
    </SynchronousCommand>
    <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <Order>3</Order>
        <CommandLine>autologcfg /u:User /p:User</CommandLine>
        <Description>Enables user Autologin</Description>
```

```
        <RequiresUserInput>false</RequiresUserInput>
    </SynchronousCommand>
    <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <Order>4</Order>
        <CommandLine>shutdown -r -t 90</CommandLine>
        <Description>Restarts after 90 seconds</Description>
        <RequiresUserInput>false</RequiresUserInput>
    </SynchronousCommand>
</FirstLogonCommands>
```

付録C — ブートイメージの準備および対応ドライバーの追加

初期設定では、Configuration Manager 2012 R2 SP1は起動イメージとしてWindows PE 5.0を使用します。この起動イメージは、Windows 8およびWindows Server 2012に使用されます。Windows 10 IoT Enterpriseイメージを使用してHP Thin Clientを管理するには、Windows PEをインポートしてWindows 10 ADKを使用します。

初期設定では、Windows 10 ADKのインストールすると、WinPE.wimが次の場所で使用可能になります。

```
C:\Program Files (x86)\Windows Kits\10\Assessment and Deployment Kit\Windows
Preinstallation Environment\amd64\en-us
```

Windows 10 ADKについて詳しくは、<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/hardware/dn913721.aspx>を参照してください。

Windows Embedded Standard 7イメージではWindows PE 3.0が使用されます。これには別のドライバー パッケージが必要となります。対応するパッケージを選択してから、イメージのキャプチャまたは展開を行ってください。

たとえば、HP t820ではインテル® イーサネット・コネクションI217-LMネットワーク カードが使用されます。Windows Embedded Standard 7イメージをHP t820でキャプチャする前に、<http://www.intel.co.jp/>で、Windows Embedded Standard 7の代わりにWindows 8のネットワーク カード ドライバーを検索してダウンロードしてください。

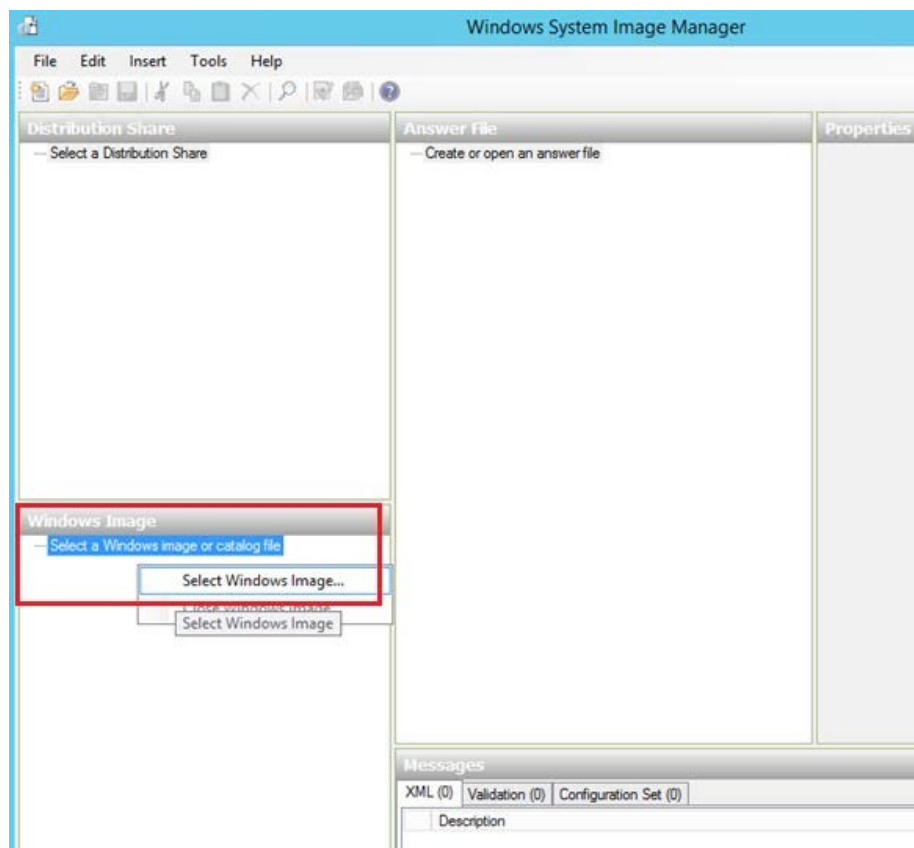
付録D — カスタマイズ済み応答ファイルを使用したWindowsセットアップの言語選択の自動化

Windowsセットアップを自動化して言語選択ページを削除するには、カスタマイズ済み応答ファイルが必要です。カスタマイズ済み応答ファイルを作成するには、次のソフトウェアが必要です。

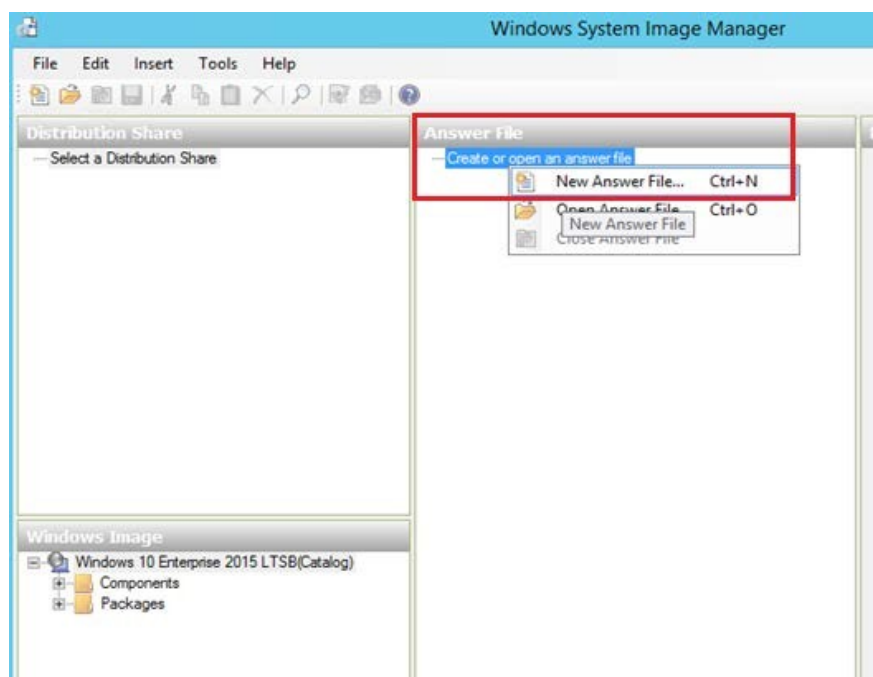
- Windowsシステム イメージ マネージャー。Windows ADKに含まれます。
- オペレーティング システム インストール メディアのソース フォルダーにあるinstall.wimファイル

カスタマイズ済み応答ファイルの作成

1. **[Windows システム イメージ マネージャー]**を開きます。
2. **[Windows イメージまたはカタログ ファイルを指定してください]**を右クリックし、**[Windows イメージを選択します]**を選択します。



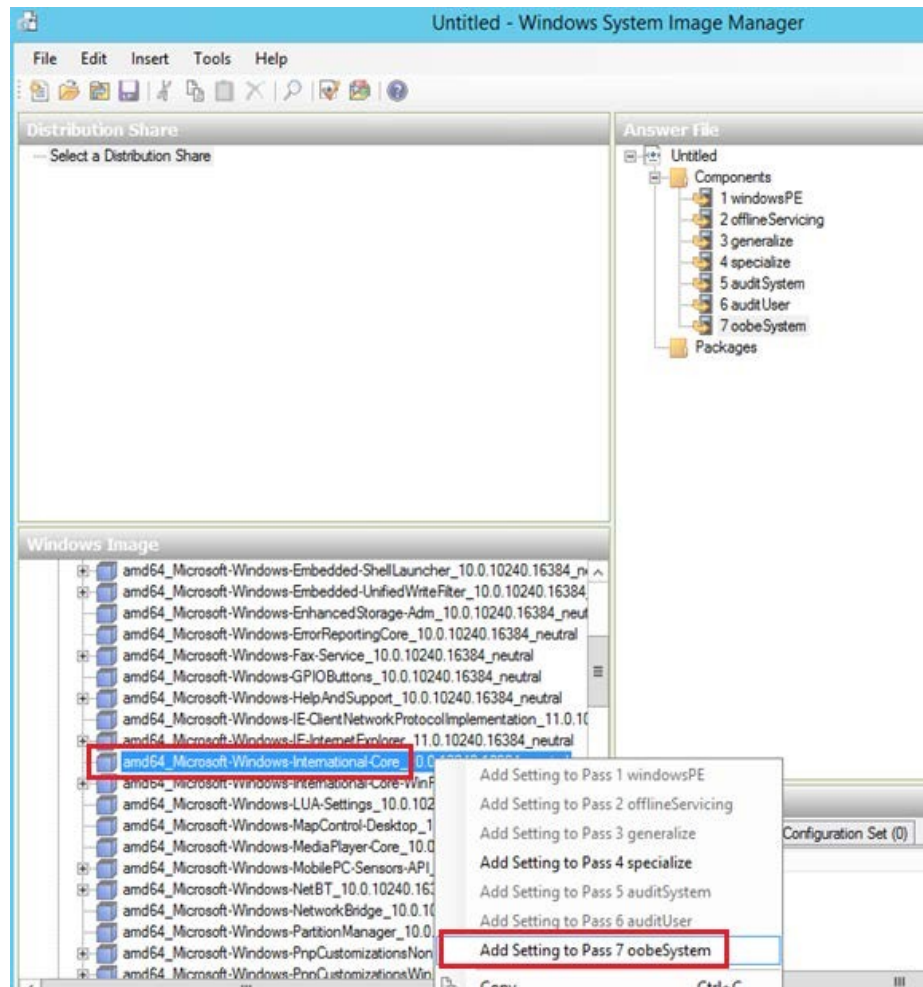
3. install.wimファイルの場所を参照し、ファイルを選択してインポートします。メッセージが表示されたら、**[はい]**を選択します。
4. **[応答ファイルを作成または開きます]**を右クリックし、**[新しい応答ファイル]**を選択します。



5. **[コンポーネント]**を展開します。**[amd64_Microsoft-Windows-International-Core_<バージョン>_neutral]**を右クリックし、**[パス 7 oobeSystem に設定を追加]**を選択します。

注：

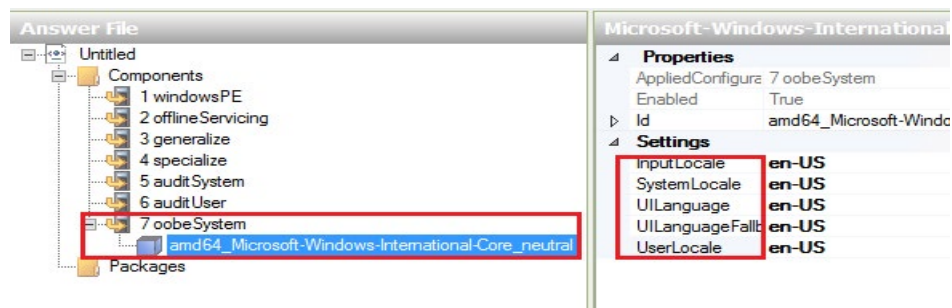
応答ファイルを適用するオペレーティング システムのアーキテクチャに基づいて、コンポーネントを選択してください。



6. **[amd64_Microsoft-Windows-International-Core_neutral]**が**[oobeSystem]**で選択されていることを確認してから、次の各フィールドで言語コードを指定します。

- InputLocale
- SystemLocale
- UILanguage
- UILanguageFallback
- UserLocale

最新の言語コードについては、<https://msdn.microsoft.com/en-us/library/cc233965.aspx>（英語サイト）を参照してください。

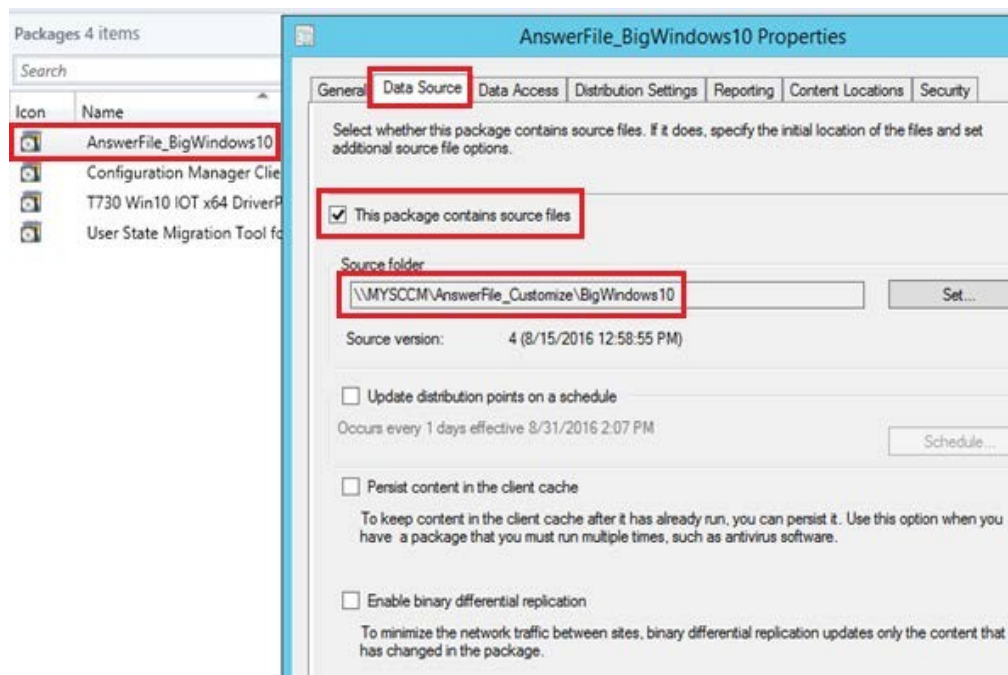


7. **[ツール]、[応答ファイルの検証]**の順に選択します。0が返された場合、検証は成功です。

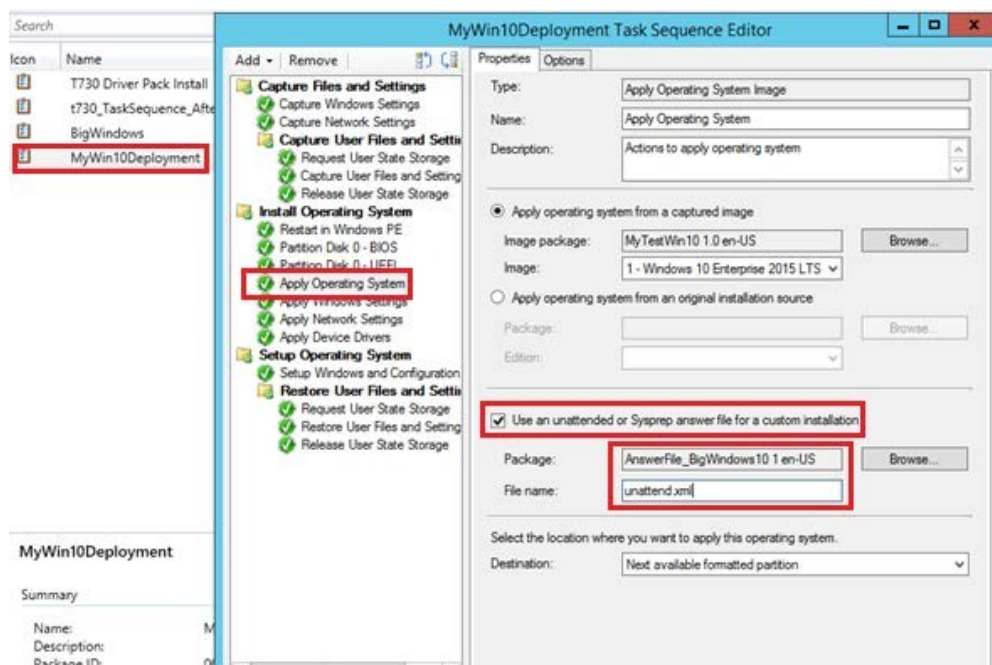
8. **[ファイル]、[応答ファイルを保存]**の順に選択し、ファイルの保存場所を選択してからファイルにunattend.xmlという名前を付けます。

Configuration Managerによるカスタマイズ済み応答ファイルの展開

1. Configuration Managerに新しいパッケージを作成します。**[This package contains source files]** (◆このパッケージにソース ファイルを含める◆) を選択し、保存したunattend.xmlファイルを**[Source folder]** (◆ソース フォルダー◆) で指定します。



2. Windowsオペレーティング システムの展開に使用するタスク シーケンスを編集します。
3. **[Apply Operating System]** (◆オペレーティング システムの適用◆) ステップを選択してから**[Use an unattended or Sysprep answer file for a custom installation]** (◆カスタム インストールに無人またはSysprep応答ファイルを使用◆) を選択します。
4. **[参照]**を選択して手順1で作成したパッケージを選択し、**[File name]** (◆ファイル名◆) に「unattend.xml」を入力します。



5. **[OK]**を選択し、テンプレート シーケンスを保存します。
6. 更新したテンプレート シーケンスを展開し、言語選択ページをWindowsセットアップから除外します。

付録E — 既知の問題および解決策

問題： Windows 10 IoT EnterpriseイメージをConfiguration Manager 2012 R2 SP1でキャプチャした後で、ユーザー アカウントの[スタート]メニューが動作しません。

解決策： sysprepの実行後にActivationStore.datを削除します。これを行うには、次の例のようなスクリプトを含む.cmdファイルを作成します。

```
c:
cd c:\Users
del /s /f /q ActivationStore.dat
```

イメージのキャプチャに使用するUSBデバイスにこの.cmdファイルをコピーし、この.cmdファイルを実行してからイメージをキャプチャします。

問題： Configuration Manager 2012 R2 SP1でイメージのキャプチャと展開を行った後で、ローカル管理者アカウントが無効になります。

解決策： イメージの展開後にThin Clientをドメインに追加するように、テンプレート シーケンスを編集します。必要に応じて、ドメイン アカウントを使用してローカル管理者アカウントを有効にします。

問題： HP Windows 10イメージをConfiguration Manager R2 SP1で展開した後で、Configuration Managerクライアントが自動的にインストールされません。その後のサブタスクはすべて中止されて、デスクトップログインになります。

解決策： イメージの展開前に、すべてのソフトウェアがインストールされた「ゴールデン イメージ」を準備します。クライアント プッシュ ポリシーをConfiguration Managerサーバーで有効にして、オペレーティング システムの展開後にクライアントとサーバーの間の接続を復元します。

注：

以下をMicrosoftからダウンロードしてください。

-Windows 10 Enterprise 2015 LTSB: KB3205383

-Windows 10 Enterprise 2016 LTSB: KB3206632

問題： OEMキーを使用して、SCCM 2012 R2でWindows 10 IoT Enterprise 2015 LTSBイメージを展開できません。このエラーが発生するのは、Setupcomplete.cmdがWindows OSに含まれ、SCCMによって使用されてクライアントが再インストールされるためです。IoT以外のバージョンのWindowsでは、新しいコンピューターで最適な操作性を提供するために、OEMプロダクト キーを使用するとSetupcomplete.cmdがブロックされます。このようなブロックはIoTバージョンのWindowsでは行われませんが、確認済みバグのために現在も残っています。これは業界全体の問題であり、HPデバイスに限られたものではありません。

解決策：

次の手順を実行してカスタマイズ済み応答ファイルを作成し、自動ログオンを設定してください。

1. 以下を含む無人xmlファイルを作成します。

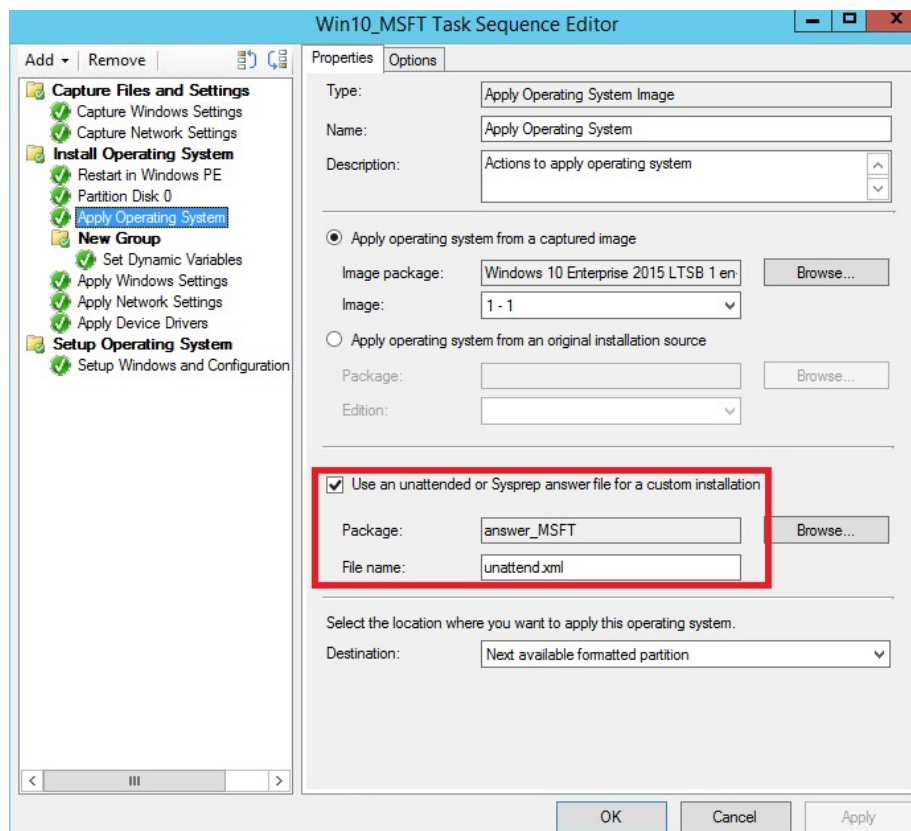
```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:unattend">
  <settings pass="specialize">
    <component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup" processorArchitecture="amd64"
      publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral" versionScope="nonSxS"
      xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
      <AutoLogon>
        <Password>
          <Value>%AUTOLOGONPASSWORD%</Value>
          <PlainText>>false</PlainText>
        </Password>
        <LogonCount>1</LogonCount>
        <Username>%AUTOLOGONUSER%</Username>
        <Enabled>>true</Enabled>
      </AutoLogon>
    </component>
  </settings>
```

```

<settings pass="oobeSystem">
  <component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup" processorArchitecture="amd64"
publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral" versionScope="nonSxS"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <AutoLogon>
      <Password>
        <Value>%AUTOLOGONPASSWORD%</Value>
        <PlainText>>false</PlainText>
      </Password>
      <Username>%AUTOLOGONUSER%</Username>
      <LogonCount>1</LogonCount>
      <Enabled>>true</Enabled>
    </AutoLogon>
    <FirstLogonCommands>
      <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <CommandLine>C:\Windows\System32\reg.exe add "HKLM\SYSTEM\Setup" /v CmdLine /t REG_SZ /d
"system32\osdsetuphook.exe /execute" /f</CommandLine>
        <Description>osdsetuphook</Description>
        <RequiresUserInput>>false</RequiresUserInput>
        <Order>1</Order>
      </SynchronousCommand>
      <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <CommandLine>C:\Windows\System32\reg.exe add "HKLM\SYSTEM\Setup" /v SetupType /t REG_DWORD /d
2 /f</CommandLine>
        <Description>osdsetuphook</Description>
        <RequiresUserInput>>false</RequiresUserInput>
        <Order>2</Order>
      </SynchronousCommand>
      <SynchronousCommand wcm:action="add">
        <CommandLine>C:\Windows\System32\shutdown.exe /r /f /t 0</CommandLine>
        <Description>osdsetuphook</Description>
        <RequiresUserInput>>false</RequiresUserInput>
        <Order>3</Order>
      </SynchronousCommand>
    </FirstLogonCommands>
    <UserAccounts>
      <LocalAccounts>
        <LocalAccount wcm:action="add">
          <Password>
            <Value>%AUTOLOGONPASSWORD%</Value>
            <PlainText>>false</PlainText>
          </Password>
          <Description>Temp Auto Logon Account</Description>
          <DisplayName>Temp Auto Logon Account</DisplayName>
          <Name>%AUTOLOGONUSER%</Name>
          <Group>Administrators</Group>
        </LocalAccount>
      </LocalAccounts>
    </UserAccounts>
  </component>
</settings>
</unattend>

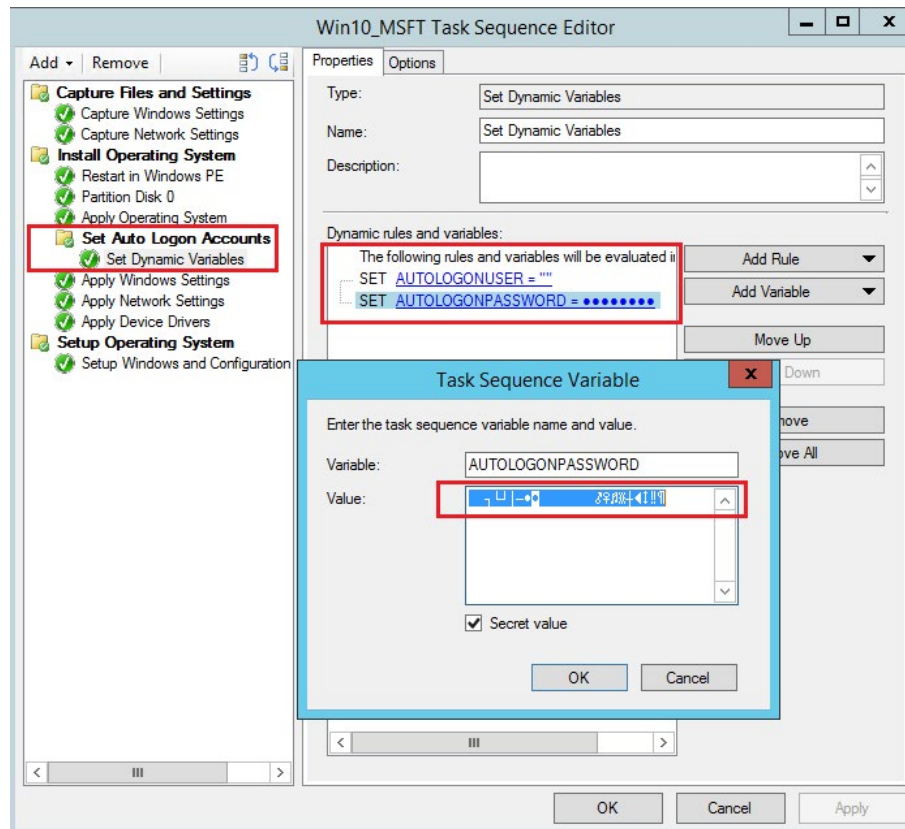
```

- この応答ファイルを使用してパッケージを作成します。オペレーティングシステム展開タスク シーケンスで[Use an unattended or Sysprep answer file for a custom installation] (◆カスタム インストールに無人またはSysprep 応答ファイルを使用◆) を選択します。【参照】を選択して、手順1で作成したパッケージを選択し、応答ファイルの名前を入力します。



- このタスク シーケンスで、[Setup Operating System] (◆オペレーティングシステムのセットアップ◆) タスクの前に自動ログイン アカウントを設定するステップを追加します。

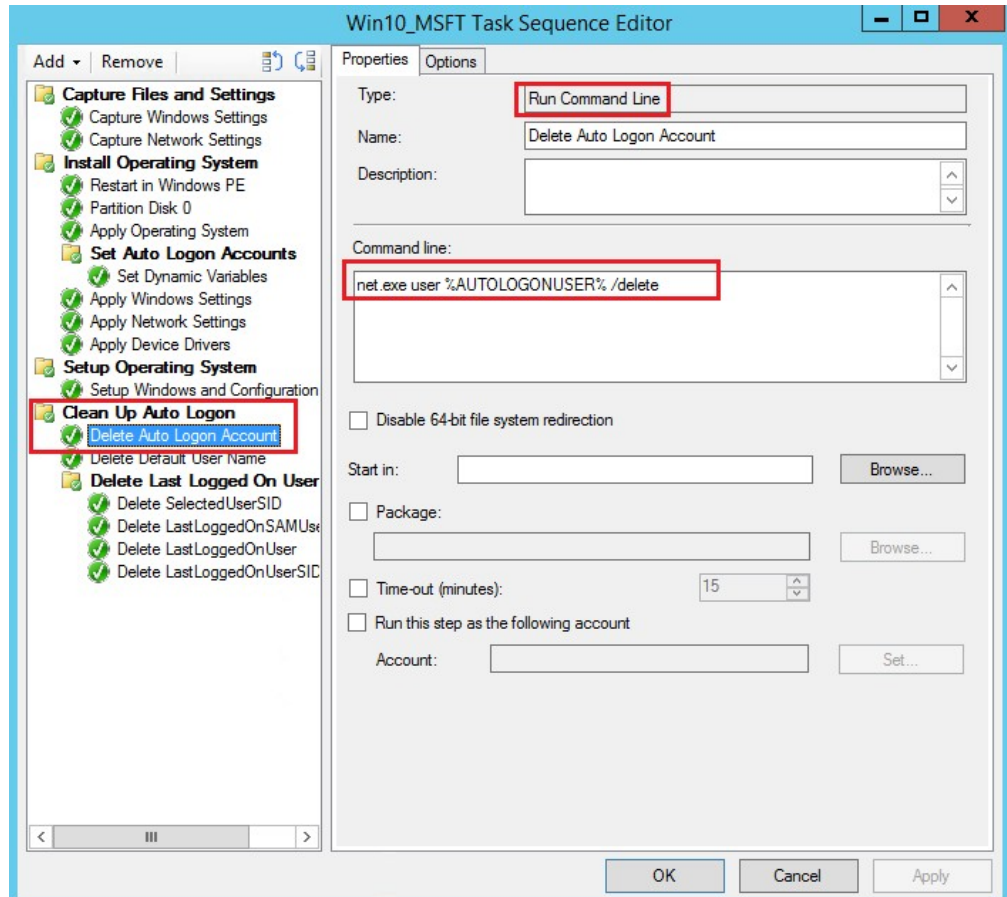
4. [Task Sequence Variable] (◆タスク シーケンス変数◆) ダイアログ ボックスの【値】フィールドに、エンコードされたパスワードを入力します。



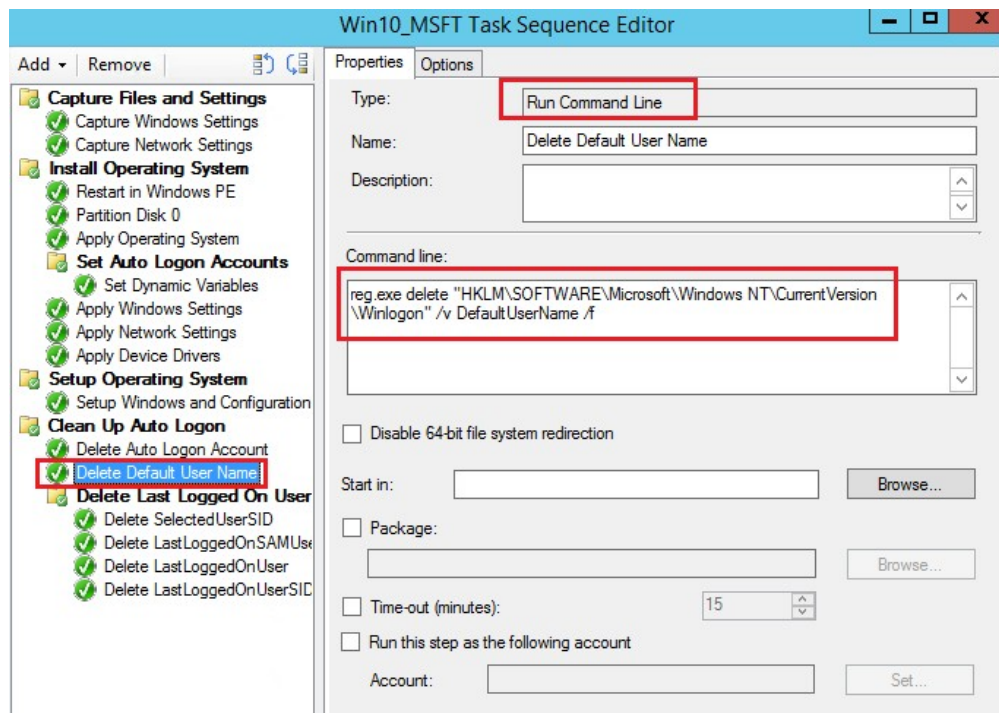
- A. エンコードされたパスワードを取得するには、Windowsシステム イメージ マネージャーを使用します。**[Windowsシステム イメージ マネージャー]**を開きます。
- B. **[ツール]**メニューで**[重要なデータを非表示にする]**が選択されていることを確認します。
- C. [Windowsイメージ]パネルで**[Windows イメージまたはカタログ ファイルを指定してください]**を右クリックし、**[Windows イメージを選択します]**を選択します。
- D. Windows 10インストールファイルが含まれている場所を参照し、**sources**フォルダーを開きます。
- E. **sources**フォルダーで、カタログ (.clg) ファイルが存在する場合はそれを選択します。カタログ ファイルが存在しない場合は、**install.wim**を選択します。数分以内にカタログ ファイルが作成されます。
- F. [応答ファイル]パネルで**[応答ファイルを作成または開きます]**を右クリックし、**[新しい応答ファイル]**を選択します。
- G. [Windowsイメージ]パネルで、**[コンポーネント]**、**[amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup]**、**[AutoLogon]**、**[Password]**の順に選択します。
- H. **[Password]**を右クリックして**[Add Settings to Pass 4 specialize]** (◆パス 4 specializeに設定を追加◆) を選択します。**[amd64_Microsoft-Windows- Shell-Setup]**、**[AutoLogon]**、**[Password]**というパスが、[応答ファイル]パネルの4 specializeに表示されます。
- I. **[Password]**が[応答ファイル]パネルで選択されていることを確認します。
- J. [Password Properties] (◆パスワード プロパティ◆) パネルの【値】の横に、プレーン テキスト バージョンのパスワードを入力します。[テキスト形式]フィールドはtrueに設定されます。
- K. [ファイル]メニューの**[応答ファイルを保存]**を選択します。
- L. ファイルに名前を付けて、任意の場所に保存します。
- M. 手順Lで保存したファイルを**[メモ帳]**で開きます。
- N. <AutoLogon> <Password>セクションの<Value>タグと</Value>タグの間は、変数の設定に必要なパスワードのエンコード済みの値です。

5. 必要に応じて、**[Clean Up Auto Logon]**（◆自動ログオンの消去◆）タスクを**[Setup Operating System]**（◆オペレーティングシステムのセットアップ◆）タスクの後に追加します。

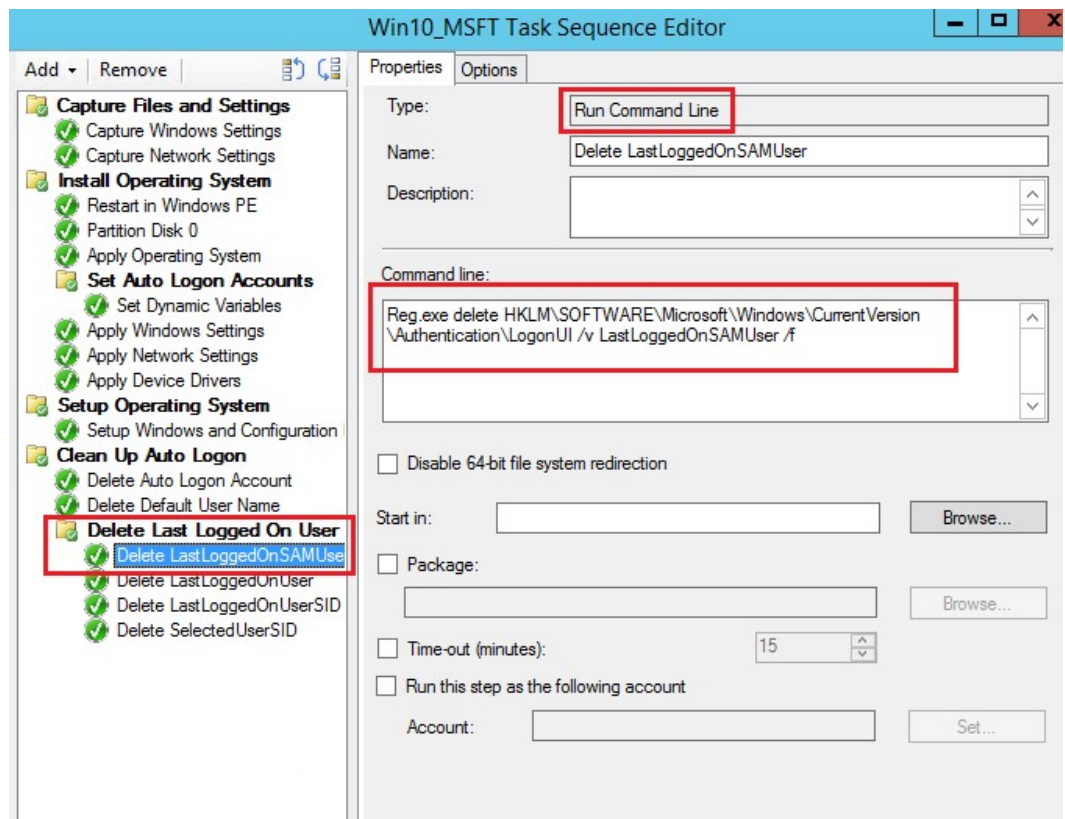
- A. **[Delete Auto Logon Account]**（◆自動ログオン アカウントの削除◆）タスクを追加します。



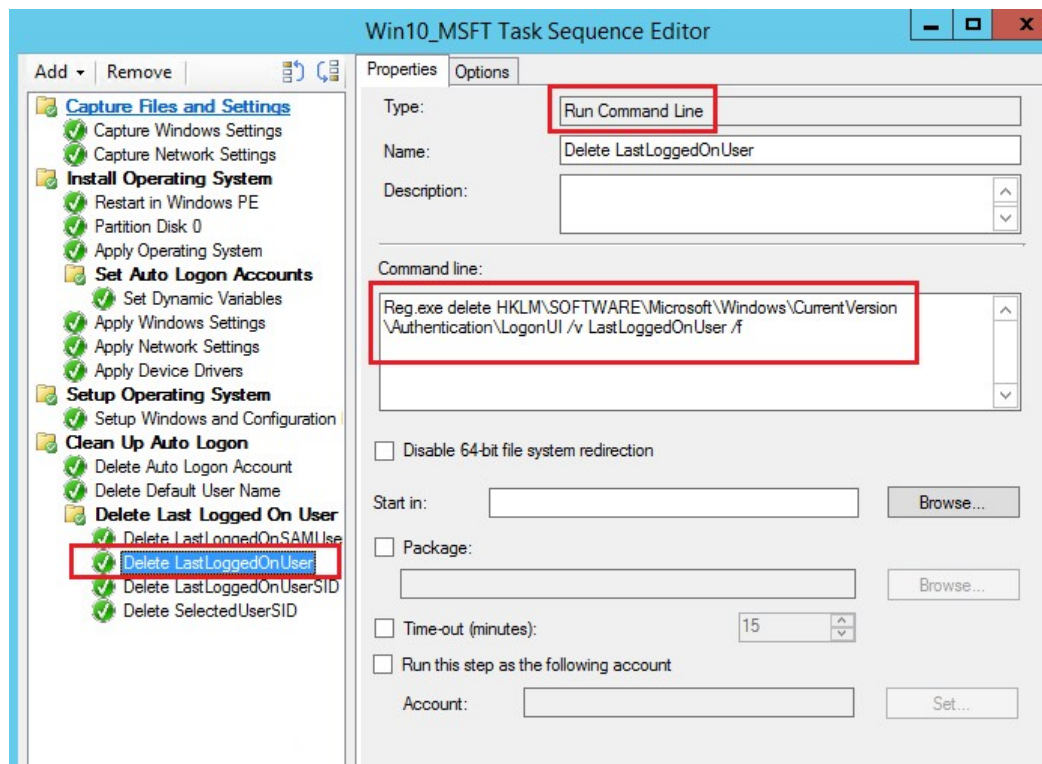
- B. **[Delete Default User Name]**（◆初期設定ユーザー名の削除◆）タスクを追加します。



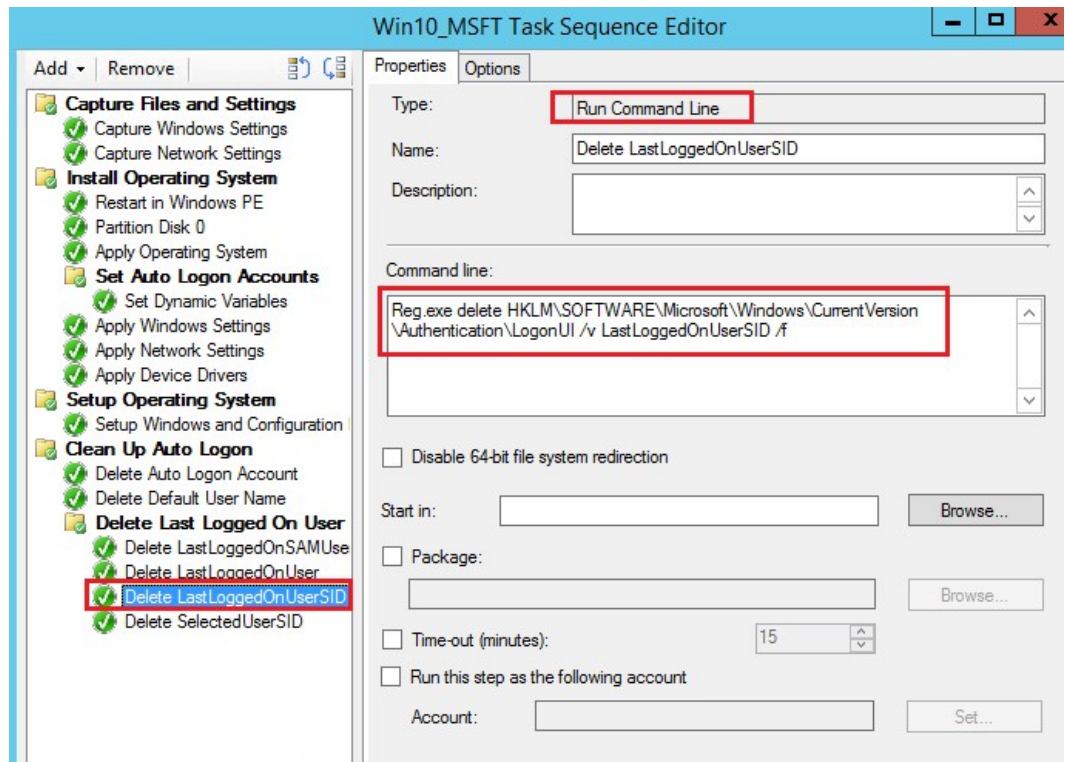
- C. **[Delete LastLoggedOnSAMUser]** (◆ LastLoggedOnSAMUserの削除 ◆) タスクを追加します。



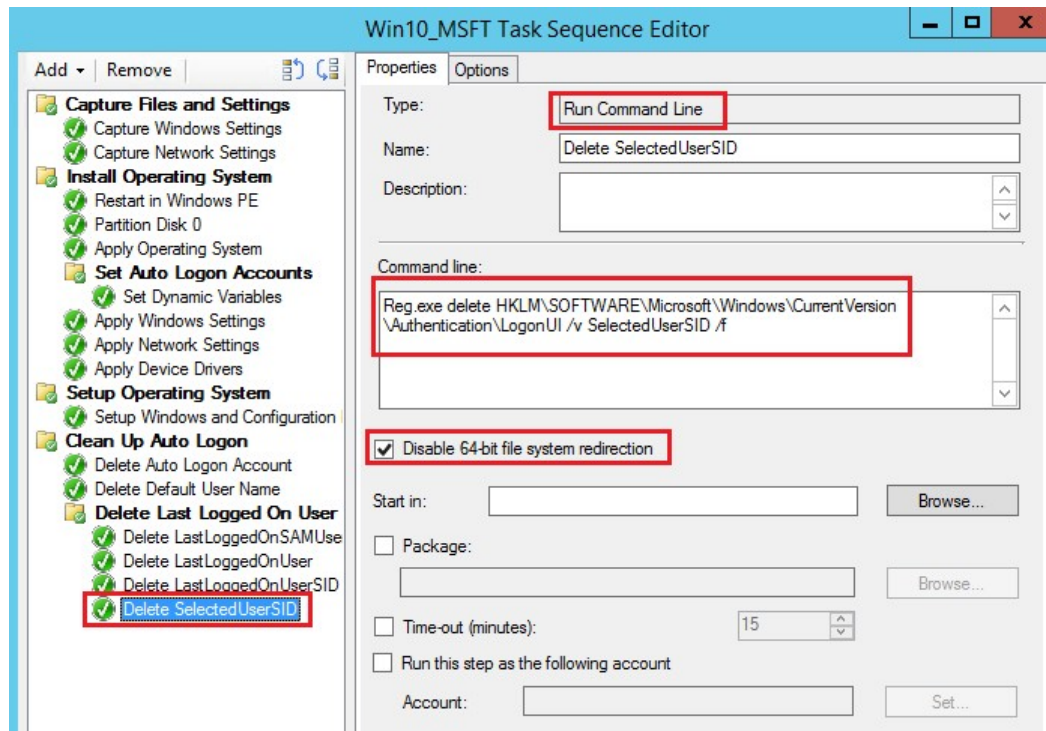
- D. **[Delete LastLoggedOnUser]** (◆ LastLoggedOnUserの削除 ◆) タスクを追加します。



- E. **[Delete LastLoggedOnUserSID]** (◆ LastLoggedOnUserSIDの削除 ◆) タスクを追加します。



- F. **[Delete SelectedUserSID]** (◆ SelectedUserSIDの削除 ◆) タスクを追加します。



詳細情報

HP Thin Clientについて詳しくは、次のWebサイトを参照してください。

- <http://www.hp.com/go/bizsupport> (Thin Clientモデルを検索してください。ドキュメンテーションについては、**[Manuals]** (◆マニュアル◆) を選択してください)
- <http://www.hp.com/go/thinclient/> (英語サイト)

最新情報をお届けします (英語サイト)

hp.com/go/getupdated

© Copyright 2013, 2015-2017 HP Development Company, L.P.

Intelは米国Intel Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。Microsoft、Windows、およびWindows Serverは米国またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

ここに記載されている情報の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

改訂第6版：2017年2月

初版：2013年6月

製品番号：738375-297

